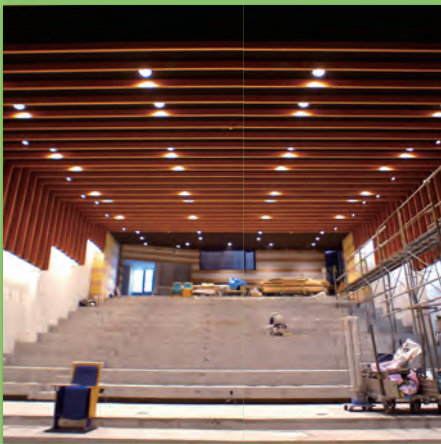


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第391号

目 次

グラビア いなげ ふるさと自慢 会員往来	
巻 頭 言	1
お知らせ	2～7
重点事業へのアプローチ	8～11
会 務	12～16
理事会のうごき	17
東日本大震災対策部会	18～19
渉 外	20
ゴルフ大会	21～22
保 険	23～24
学 術	25
母校だより	26～30
支部のうごき	31～40
クラス会だより	41～43
庶務日誌	44～46
逝去会員	46～47
追 悼	47
投稿規定	48
いいんかいしょうかい	49
へんしゅうこうき	50

い な げ

昭和56年（1981年）9月。東京歯科大学千葉校舎が開校して30年余、現在は、水道橋への移転に向け新校舎の建設が進んでおり、今、新たな母校の歴史が始まろうとしています。

そして、思い出が詰まった千葉校舎に愛着の思いがあることも確かなこと。今号より数回にわたり、大学広報を担当されている橋本貞充先生が、この素晴らしい校舎の記録を後世に残したいと撮りためた写真とともに、思いをめぐらせていただけたらと思います。

（昭和56年卒業 橋本貞充 写真
広報部 佐々木葉子 記）



ガラス張りの講堂に映る風景。
入学式の時には、こんな風景を見る余裕はなかったかな。



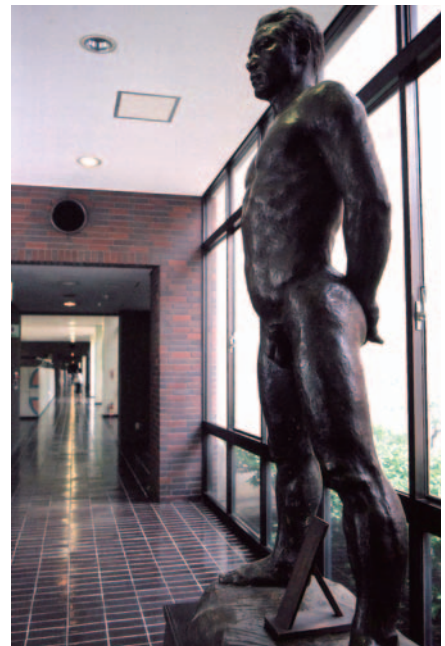
誰もが、必ず一度は座ったことのある、厚生棟前の広場のベンチ。いろんなひとが色んなことを話した、思い出がしみ込んでる…。



4月 教養棟脇の桜。
新入生のドキドキが伝わってくるような、雨のしずくに濡れた薄桃色。



基礎棟1階ラウンジのバルコニー。
講義の間のホッとするひととき…。
大好きな櫻の鮮やかな緑。



教養棟側の入口から。
講義が始まる…！ 走れ、走れ!!…
第1教室まで、遠かったなあ。



管理棟2階 会議室前。
学位論文審査の時の最高に緊張した空間。
写真に撮ると、こんなにオシャレだったんだ…。



教養棟2階の教室。
122期1年B組のみんな。後期試験前の最後の授業。
もう、この教室に、先生の声が響くことはありません。



これ、どこだかわかるかな…？
くぼんだガラスブロックの向こうに見える、緑の
並木。



卒業式にあわせるかのように咲き誇る、満開の河津ざくら。でも、この日は、桜より卒業生たちの笑顔の方が、輝いていたっけ。

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

Where is Edo Tokyo Architectural Museum ?

武蔵野の自然が残る小金井公園

北 多 摩



表題の英会話は当診療所の前で外国からの旅行者からの質問である。小金井公園内にある「江戸東京たてもの園」が国際的な観光スポットになったことを示している。今回の「ふるさと自慢」は東京武蔵野の小金井市と小平市の市境にあり公園内に江戸東京たてもの園を併設する都立小金井公園について紹介する。

小金井公園は昭和29年に開園した広さ799,127m²の都立公園である。隣接する小金井カントリークラブとあわせて広大な緑をなしている。公園内はテニスコート16面、野球場1面、サイクリング専用ロード、そりゲレンデ、バーベキュー広場などがあるが、まず江戸



江戸東京たてもの園

東京たてもの園について書く。

江戸東京たてもの園のエリアは有料となっており500円の入園料がかかる。東京近郊の明治、大正、昭和の建物が30棟ほど移築されており当時の模様が再現されて

いる。移築建築物のなかには万世橋交番（万世橋交差点）、丸二商店荒物屋（神田神保町3丁目）、武井三省堂文具店神田須田町1丁目）、花市生花店（神田淡路町1丁目）、など東京歯科大学のすぐ



万世橋交番



丸二商店荒物屋



武井三省堂文具店



花市生花店

近くに建っていた建築物もある。昭和前半に水道橋で学生生活をおくられた大先輩の中には見られた記憶がある方もいらっしゃるかもしれない。それぞれの移築建築物内は入ることができ備品やはり紙、値段表、ポスターなどきちんと整備され当時の物価や様子がよ

くわかる。

次に上記以外の小金井公園の魅力について書く。子供が小さかった頃はそりゲレンデでよく遊ばせた。そりは貸し出しもあるが自前で持っていくと並ばなくてすむ。1,500m²で斜度が17度の人工芝のゲレンデは、かなりスピードがで

る。また、毎週日曜日にフリーマーケットが開催され何度か出展した。小さくなった子供服、型が古くなり診療室で出さなくなった歯ブラシ、サンプルに歯科材料屋が持ってきたが患者用には出さぬ気のない歯ブラシや歯間ブラシ、歯磨剤などよく売れた。2月には



満開の梅林



満開の桜

100本の梅林が花をさかせる。4月には1,700本の桜が咲き、お花見で大変な人出となる。期間中は桜がライトアップされ夜桜見物も可能である。

最後に公園周辺のグルメスポットを紹介する。“オープンミトン”NHK「今日の料理」の講師で有名なパティシエ小島ルミさんのお店である。評判のシュークリームは260円という良心的な価格設定ですぐ売り切れる。ご主人はシェフ



評判のシュークリーム



牛100%炭火ハンバーグ

で、同店にてキッシュなども食べられるが、ほとんどの客はケーキのテイクアウトのみである。“ウッドストック”みのもんたの「愛の貧乏脱出大作戦」で巨匠(だめ料理人に教える側)として出演した方の炭火ハンバーグのお店である。牛100%ハンバーグは中がまだ赤い生のままで提供される。切ると熱々の透明な肉汁が出るハンバーグを想像すると期待を裏切られる。“同心居”，元々野菜卸をされていた関係で地元産の新鮮な

野菜を仕入れることができる。その野菜のおいしさを卓越した中華のテクニックで料理にとじ込め提供してくれる。毎年妻の誕生日に中華オードブルをテイクアウトするが、覚えていてくれ杏仁豆腐をサービスしてくれる。

以上小金井公園とその周辺について紹介した。小金井カントリークラブのゴルフ帰り、府中運転免許試験場の免許更新帰りでも立ち寄っていただきたい。

(昭和60年卒 宇梶常幸)



新鮮野菜で作られた中華料理

会 員 往 来

今回の「会員往来」では、横浜鶴見支部の大先輩、平 光雄先生をご紹介させて頂きたいと思います。先生は、本年9月で満97歳。現在も週に数回は白衣に袖を通し、臨床に従事される現役歯科医であるとともに、沖縄古典音楽「湛水流」の第12代傳承者として同流沖縄県無形文化財保持者であり沖縄県文化功労者にも認定されるなど沖縄古典音楽の継承と発展に力を注いでおられる当支部自慢の先輩です。先生の活躍されている沖縄古典音楽の一端をお楽しみ下さい。 (横浜鶴見支部 宇佐美貴弘)

琉球の古典音楽

平 光 雄 (昭和15年卒)

1. はじめに

東歯在学中は管絃楽部で部活を行い、ヴァイオリンを担当しておりました。

東歯の管絃楽部は、当時慶応大学の「ワグネルソサエティ」と、同医学部管絃楽部の応援のお陰で、毎年盛大な音楽会を催すことが出来ました。

私の最高学年4年生(昭14)の秋の演奏会は信濃町の日本青年会館で、オペラで有名な三浦 環女史に私達の伴奏で、歌劇「マダム・バタフライ」の一幕を歌って

もらう程の充実振りでした。

東歯時代の音楽部での理論勉強で鍛えられたお陰で、後年沖縄の郷土芸能(三線古典音楽と舞踊)研究と歯科医業との二足の草鞋を穿くようになりました。

今回東歯同窓会会報「会員往来」の要請で沖縄の芸能、特に私が12代傳承者になっている「湛水流」等について琉球の古典音楽を御紹介いたします。

2. 琉球の古典芸能史

- 1) 先史時代(原始時代)
- 2) 古琉球(古代沖縄)



東歯管絃楽部 三浦 環女史との公演記念(最後列右端は筆者)

3) 近世琉球(島津の琉球侵略)

4) 近代沖縄

5) 戦後沖縄

先史時代は今から数万年前から、12世紀までに及ぶ長い期間。

古琉球は12世紀頃から、島津の琉球侵略(1609)までの約500年間。

近世琉球は島津の琉球占領期間(1609~1879)の270年間。

それ以後が近代沖縄、戦後沖縄になります。

先史時代日本文化の系統に属する文化をもった人々が、海に囲まれた南の琉球列島に住みついたが、その後彼等は長い先史時代を経て、やがて古琉球の時代には、日本社会の枠外に独自の国家(琉球王国)を持つ程のユニークな歴史を営みました。

そういう個性を持つ地域が、島津の琉球侵略事件、明治政府の琉球処分という2つの事件を契機に、日本社会の一員として段階的に編成されることになりました。

3. 古琉球の芸能

古琉球の時代には、21世紀の今日でも沖縄古典音楽中、芸術的に最高の価値があると評価されている大昔節と称する五曲が既に存在していました。

その発生についての記録はなく、後世琉球音楽の楽聖といわれる人達もこれに改革の斧鉞(おの、まさかりでふえつ)を加えず、今日まで昔のままに温存されています。琉球芸能研究の巨匠山内盛彬(1890~1986)は、大昔節五曲は平家楽であると明言しています。

古琉球時代に平家楽が琉球にあり得たという問題に少しふれてみ

ましよう。

九条家の始祖で凡そ860年前の藤原兼実という人の公卿日記「玉葉」の文治3年3月19日の所に次のように記してあります。

「壇の浦の合戦後、平家は讃岐の八島に帰り住んでいる。その勢3,000騎ばかり…。

又維盛卿30艘ばかり率いて南海を指して去っていった…」と明記してあります。

壇の浦敗戦は1185年、文治3年は1187年で、当時の軍船(清盛が力を入れて造らせた唐船の乗組員は100名以上でありました。3,000騎の将兵が一族郎党を挙げて30艘で落ちのびたわけで、総勢は男女合せて莫大な数であったろうと想像されます。

源氏の総大将義経が鎌倉に送った戦後報告に、「但し旧主(安徳天皇をさす)の御事は分明ならず」と書いてあります。

幣原 坦の著書「南島沿革史論」には、九州西海岸から沖縄南端の与那国島に至る島々に、平家の口碑、伝説及び遺跡が残っていることが述べられています。私が生れ育った沖縄山原の本部半島には、嵐山、音羽山、そのふもとを流れる大井川(万葉に詠まれた大井川は京都の嵐山の桂川のこと)の名が現存して、平家来島を偲ばせております。

島津統治時代沖縄の歴史も書きかえられて、琉球初代の王は、伊豆を逃れた源 為朝が琉球に流れ着き、その子が長じて琉球初代の王の「舜天」であることになっています。

島津治世の270年の間に、平家来島の痕跡が沖縄本島からは殆ど

消滅させられたと考えられます。

古琉球時代の大昔節が、完全な形で現存するという現実が平家来島の動かざる証拠であります。

古琉球の時代、中国から三絃楽器(さんしん)が入り、後世音楽の神と称えられる「アカインク」

(阿嘉は姓、インクは愛称)は、大昔節を頂点として、自らは昔節(琉球で発生、之も5曲で大曲)の作田節(ちくてん)を作曲し、現存の歌曲や各地の民謡を三線にのせる等高度の芸術音楽に改革して、尚真王代(1477~1526)に琉球文化の黄金時代をもたらしました。

島津の圧政と重税でその黄金文化も衰微の一途を辿り、古楽も滅亡の危機に瀕した。これを憂いて古楽を集大成したのが湛水親方(幸地賢忠)であります。湛水親方は古楽を「湛水流」と称して伝えたが、四代目の劇聖玉城 朝薫の時代に聞覚流と二派に分れた。聞覚流は島津治世下、優れた日本の謡曲等を吸収して、当流(野村流、安富祖流の二派の名称)に発展して今日に至っています。

本流の湛水流は朝薫時代に全盛を極めたが、朝薫後は進歩した当流に押されて衰退の道を辿り、琉球王朝最後の尚 泰王の時は、湛水流奏者は第9代伝承者名護良保(1808~1877)一人になりました。

古典音楽当流の教本は上・中・下・続巻の4冊からなり、古来暗記を伴う古典音楽の修得は一大難事であり、その外に湛水流までという人は中々出て参りません。従って10代山内盛焘は孫盛彬に、11代盛彬は平 光雄に伝承しました。私も後継者を極力探しましたが、前記と全く同じ理由で見つけ



雅楽。宮内庁楽部東儀 博副楽長外と琉球古楽昔節とのコラボ
(三線正面雛壇左から4人目筆者。雅楽上座右から3人目東儀 博副楽長)



声明。即真尊王大僧正外と琉球古楽大昔節とのコラボ
(後列中央即真大僧正，前列左端は筆者，2人目人間国宝島袋正雄師)

ることが出来ませんでした。万策
つきて私淑する琉球音楽の元老格
の祖慶 剛先生（故人）に御協力
をお願いしました。先生の御協力が
得られ、そのお弟子さん全員が
湛水流を修得することになり、沖
縄に「湛水流伝統保存会」も設立
することが出来ました。昨年（平
成24）は、東京の江戸博物館ホ
ールで創立30周年記念公演と、私の

辰年97歳祝いを催すことが出来ま
した。

湛水派4代の時、分派した聞覚
流は、島津統治時代、日本の発達
した音楽を取り入れて、当流
（野村流と安富祖流）となり、沖
縄古典音楽の本流として、現在隆
盛を極めております。

私は自分の研究発表機関の琉線
会で、大昔節については、比叡山

の高僧即真尊王大僧正、昔節につ
いては宮内庁楽部の東儀 博副楽
長(当時)と謡曲の観世流中山玲陽
師等とのコラボレーションを実現
して琉楽界から高評をいただきました。
かくして純粹の琉球古楽の
湛水流と、日本音楽の影響をうけ
た当流が両立して発展することを
念じて筆を擱く事にします。

総務・厚生あれこれ



総務・厚生部常任理事

財 部 正 治

矢崎執行部が動き出し、すでに1年が経過しました。前大山執行部の同窓会改革路線を継承し、さらに一層の改革が進められております。矢崎会長の掲げた24年度年頭の会務執行の重点項目として、「同窓会改革の推進と発展」を挙げておられますが、その成果が次第に実際の形として現れて参りました。

昨年の評議員会は、評議員の数が128名から78名に削減されたため、前回に比べかなりスリムなものとなりました。これは、これまで評議員が支部単位で選出されてきたものを、各地域支部連合会単位の選出とし、またクラス代表の評議員を見合わせたことによります。

本部と支部および支部連合会の連携を強化するため、地域支部連合会が支部と本部のパイプ役として明確に位置付けることになりました。ただ、現状では地域支部連合会の機能に地域差があり、経過措置として各県最低1名の評議員が確保されています。

クラス代表の評議員を見合わせたことについては、今後検討することが前提になっておりますが、若手会員の意見をくみ上げる代替策として学年代表者会を開催し、その効果を検証しているところであり、地域選出の評議員は比較的高い年齢の世代に集中することから、学年代表者会は幅広い年代層の意見を聞く場として、今後少なからず役割を果たすものと思われま

す。このような事情を背景に、23年から数えて2年を

目途に経過措置の見直しが行われます。具体的には今年の評議員会で協議されることとなりますが、それまでの間に各支部での議論を深めるようお願い致します。

毎年、評議員会に引き続いて総会が行われます。総会は会員が発言出来るもっとも上に立つ会議として、また会則の変更、決算および資産の状況を議決する場として重要な会議であることに違いありません。しかしながら、ここ数年、総会だけに出席する会員はほとんど無く、評議員会出席者がそのまま総会に臨む状況が続いております。そのため、昨今、総会の廃止案が浮上してきました。本来の目的を果たし得なくなってきていますし、日本歯科医師会でも総会が廃止されました。

今後、存続、廃止、条件付きの廃止、の3つの選択肢を軸に議論が進むものと思われま

す。仮に廃止の方向に向かうことになれば、評議員会の役割はさらに大きくなります。また評議員を選出する地域支部連合会の意義も一層重要なものとなります。各地域支部連合会で行われる支部長会には矢崎会長以下本部役員が出席します。各地域の支部長各位共々、先を見据えた総会のあり方についての結論が得られるよう、十分な協議を進めていく予定であります。

昨年の評議員会で協議題として提出したもう一つの大きな問題に、同窓会選挙規則作成の件があります。これまで会長、監事は評議員会において、会員の中から選出することが、会則に定められておりましたが、選出するための選挙規則がありませんでした。23年の評議員会において選挙規則作成を要望する意見があり、会員相互の公平性を保つ意味から、その成立に向けて、会務検討特別委員会に諮問し協議をお願いしております。間もなく具体的な選挙規則案の答申が出来るものと思われま

す。総務・厚生部では上記の項目のほか、今後の共済のあり方、会費収入の減少に伴う今後の年間事業の見直し、会員管理対策など種々の重要な問題に取り組んでおります。これまでの運営方針に対し、時代に即した変更、改善を図っていくことは本部役員に科せられた使命と考えます。ただ、それを実践していくためには、会員各位のご理解とご協力が不可欠であります。よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

なお再来年には同窓会は120周年を迎えます。現状に見合った記念事業の検討に入っております。ご期待ください。

お知らせ

理事会より

- 同窓会ホームページがリニューアルされました。詳細は5ページをご覧ください。
- 平成26年度同窓会会報は、年4回発行となる予定です。発行月など詳細は追ってお知らせします。

同窓会事業・行事

- 学年代表者会
と き 平成25年7月7日（日）
ところ 東京歯科大学（水道橋 本館校舎（仮称）13階）
- 新進会員のつどい
と き 平成25年7月28日（日）
ところ 東京歯科大学（水道橋 本館校舎（仮称）13階）
- 第41回全国ゴルフ大会
と き 平成25年9月12日（木）
ところ 横浜カントリークラブ（神奈川県）
- 平成25年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成25年11月17日（日）
ところ 東京歯科大学（水道橋 血脇記念ホール）
- TDC 卒後研修セミナー2013プログラム

卒研セミナー

- | | |
|---|--|
| No.3 実習セミナー『ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析』
7月7日（日）・9月29日（日） | No.6 イブニングセミナー『今日からはじめるこだわりのペリオ』
～歯根膜の臨床観察と歯周治療～
11月14日（木） |
| No.4 臨床セミナー『歯科疾患!! どこから手をつける?』
～病態の理解とタイプ別臨床診断・治療計画～
10月13日（日） | インプラントセミナー
インプラントの極意4日間コース
7月20日（土）・7月21日（日） |
| No.5 実習セミナー『CAD/CAMを極める』
～初めてのオールセラミックス・支台歯形成の基本から合着まで～
11月10日（日） | |

地域支部連合・支部関係

- 地域支部連合会会長の交代
平成25年1月1日付
九州地域支部連合会 吉嶺 光氏（昭50卒）
前連合会長 緒方 進氏（昭44卒）

● 支部長交代

平成25年1月1日付

青森県支部 本田 富彦 氏 (昭49卒)
前支部長 松山 陽一 氏 (昭34卒)

平成25年3月31日付

兵庫県支部 西村 亮介 氏 (昭47卒)
前支部長 荻原 威雄 氏 (昭47卒)

鹿児島県支部 吉嶺 光 氏 (昭50卒)
前支部長 内田 信友 氏 (昭49卒)

平成25年4月1日付

群馬県支部 引田 正俊 氏 (昭52卒)
前支部長 清見 能久 氏 (昭52卒)

平成25年3月1日付

北多摩支部 奥野 和志 氏 (昭49卒)
前支部長 中山 友春 氏 (昭47卒)

葛飾支部 佐藤 浩一 氏 (昭56卒)
前支部長 高野 博子 氏 (昭55卒)

平成25年3月2日付

広島県支部 野間 博 氏 (昭49卒)
前支部長 高木 勇蔵 氏 (昭44卒)

母校関係行事・案内

● 平成25年度東京歯科大学学会

第296回総会 平成25年10月19日(土)・20日(日) 水道橋校舎
演題締切 8月27日(火)

大学院修了式にて同窓会長賞は、黒田英孝先生と山田裕介先生に

平成25年3月15日大学院修了式が卒業式とともに行われました。大学院優秀論文に贈られる同窓会長賞は歯科麻酔学講座の黒田英孝先生が論文演題「Sodium-Calcium Exchangers in Rat Trigeminal Ganglion Neurons」にて、有床義歯補綴学講座の山田裕介先生が論文演題「Reduction of biofilm formation on titanium surface with ultraviolet-C pre-irradiation」にて受賞されました。



宮地副会長より同窓会長賞授与



同窓の皆さまのお力で 新血脇記念ホール完成しましょう

新血脇記念ホールへの寄付のお願いと 同窓からの寄付の現状について

同窓会会長 矢崎 秀昭

水道橋に建設中の新校舎の中に
できます、新血脇記念ホール建設
への同窓からのご寄付は、本年4
月末までに1,228名の会員、さら
に18の支部や、15のクラス会な
ど、多くの同窓の皆さま方のご協
力により、寄付金の総額は約2億
4千万円程となっております。
早々にご寄付賜りました会員の
皆様には衷心より深く感謝申し上
げます。

本年7月の完成に向けて、現在
の水道橋病院のすぐ近くに建設さ
れ、その2階、3階部分が新血脇
記念ホールとなる新校舎の建築工
事は、大変順調に進行しておりま
す。

同窓の力を結集して、この新
血脇記念ホールを完成する事によ
り、母校、東京歯科大学が歯科大



本年7月の完成に向けて着々と進む
新血脇記念ホールの工事



新血脇記念ホールの完成図

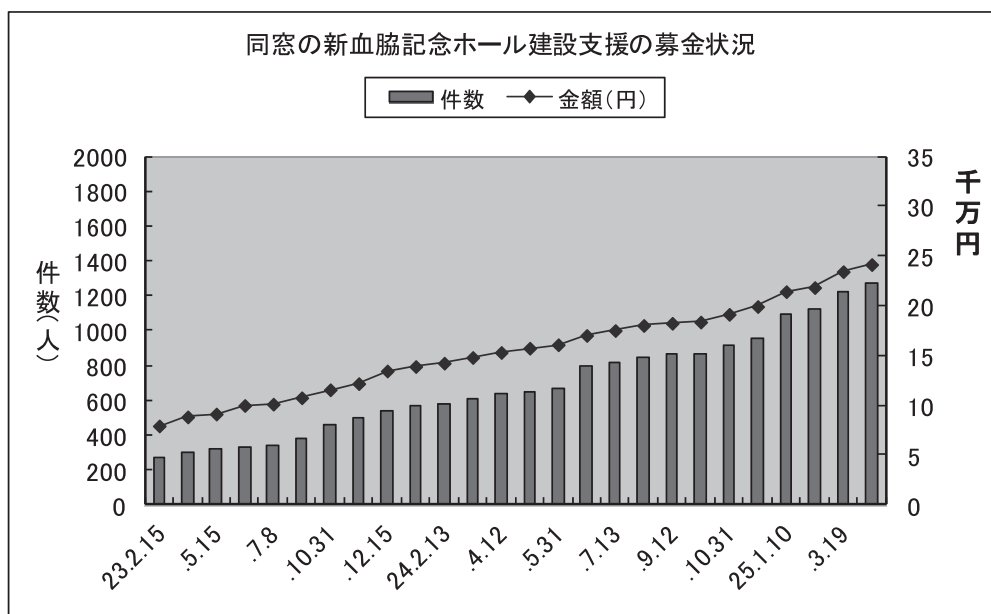
学の雄として今後とも輝き続ける
ことへの熱い思いと、同窓の皆さ
まの連帯のシンボルとして、次世
代まで伝えることとなります。

目標としております寄付の額
は、新血脇記念ホールの建設に要
する5億円となっております。ご寄
付賜わる金額はご自由ですので、
9,000人おられる同窓会会員のお
一人でも多くの方から、ご支援賜
わることを心よりお願い申し上げ

ます。

新血脇記念ホールのための、ご
寄付の申し込みを戴ける先生に
は、同窓会事務局までご連絡賜わ
れば、すぐに申し込み用紙等をお
送り申し上げます。

(同窓会：電話03-5275-1761、
ファックス：03-3264-4859)
(また東京歯科大学のホームペ
ージからも、寄付の申し込み用紙
は、簡単にプリントできます)



多くの同窓のご協力、誠に有難うございます。更により多くの会員の
皆さまのご支援を宜しくお願い申し上げます。

HP

東京歯科大学同窓会ホームページ 5年ぶりのバージョンアップ!

東京歯科大学の水道橋移転、同窓会創立120周年、情報ネットや若手ネットワークの始動など、改革が具体化している中、広報委員会も変化しております。

今期の広報部は、会報委員会とホームページ委員会の統合、「会員往来」「いなげ」などの新セクション・カラーページ増などの誌面刷新、Facebook ページ始動と、既に様々な計画を始動させておりますが、次のステップとして、6月3日(月)、東京歯科大学同窓会ホームページをリニューアルいたしました。今回のリニューアルのポイントは、「スマホ・タブレット」「観たい・知りたいコンテンツへダイレクトにアクセス」をキーワードとしました。新しい操作感をぜひご体験下さい。



具体的には、

- 1) 写真の「スライドショー」表示による、ビジュアル面での充実
- 2) 「カテゴリー」「タグ」と呼ばれる予めひも付けされたキーワード、または文字入力による記事の検索
- 3) 「RSS」(サイトの更新情報の配信機能)による大学ウェブサイトとのコンテンツの相互共有と、ご希望の同窓会員への記事掲載・更新の通知
- 4) 「アーカイブ」(各セクションのPDFなど、ダウンロード資料の統合)としての機能充実
- 5) ご意見・ご質問をいただくため、新たに「MAIL BOX ご意見・ご質問」を設置
MAIL BOX内では、(若手ネットワーク MailBox) (執行部宛ご意見箱) (広報部お問い合わせ)のページへ。

以上が挙げられます。

また、内容に関しても、「オープン化」を念頭に、今までの会員ページに掲載されていたコンテンツについて、さらに多くの同窓会員の皆様にご覧頂けるよう、パスワード無しで閲覧できる項目を増やしました。

一方で、公開を制限せざるを得ない項目へアクセスするためのID・パスワードに関しては、セキュリティ確保のため、毎年の変更とさせていただきます(覚えやすいものに変更いたします)。

毎年2月発行の同窓会報に掲載いたしますので、必ずご確認くださいませようお願いいたします。情報ネットを通して、各支部長・支部担当者へID・パスワードを逐次ご連絡いたしますので、何卒ご了承ください。

【新ID・パスワードは、今月号「編集後記」のページに記載されております。毎年2月号に、同じ場所に掲載いたします】。

これからも、同窓会の各委員会と共に連携し、広報委員会は様々な企画を立ち上げていきます。今後の同窓会報・ホームページにご期待ください。



「若手支援ネットワークシステム」が始動します！


～若手の先生方へ～

新年度に入り、新たに歯科医師としての一步を踏み出した先生、研修期間を修了しさらにステップアップを目指す先生、大学院を修了し専門分野で臨床に励む先生、そろそろ開業を考えている先生など、其々の新しい環境でご活躍のことと思います。

若手ネットワーク委員会では、そのような若手の先生方からの相談や質問に対応できるよう、全国の支部、連合会とネットワークをつくりました。

「先輩の診療を見学したいけど、どこに行けば良いのかなあ？」「出身地での開業を考えているけど、相談できる先輩がいない…」「歯科医師会ってどんな組織なのかな？」「同窓の先生方から直接生の声を聞いて勉強したい」「そろそろ結婚を考えているけど、子育てをしながら歯科医は出来るの？」「クラス会を開催したいけど、どうしたら良いの？」などなど…若い先生方の相談や質問の対応をすべく若手ネットワーク委員会が同窓会員同士の橋渡しをします。昨今のIT社会では、ネットから情報が簡単に検索できるようになりましたが、ネットの情報からだけでは解らないことを、現場の諸先輩と話してみませんか！

◆ネットワークシステム◆

- ①まず、同窓会 HP にアクセスしてください。
 - ②トップページの「MAIL BOX ご意見・ご質問」 をクリックします。
 - ③「若手ネットワーク MailBox」に以下の内容を記載し送信してください。
(若手ネットワーク委員会 タグ の中からでも入ることが出来ます)
【必要事項】氏名、卒業年度、連絡先、相談・質問内容
 - ④若手ネットワーク委員会より、先生にご連絡をさせていただきます。
 - ⑤質問・相談内容を確認し、内容にあった関係部署や団体、医療機関との調整をいたします。
 - ⑥出身地など地域において対応する方が良い場合には、若手ネットワーク委員会から各支部のネットワーク担当者へ連絡し、若手の先生の要望に添えるよう、橋渡しをさせていただきます。
- *このネットワーク上では、個人情報保護の観点より、就職や実際の診療内容についての対応はいたしません。このネットワークを通して知り合った諸先輩とFace to faceで相談にのってもらいましょう。

～若い先生を暖かくご支援して下さる諸先輩方へ～

上記記載のように、若手の先生方と本部・地区同窓会とのネットワークを構築いたしました。

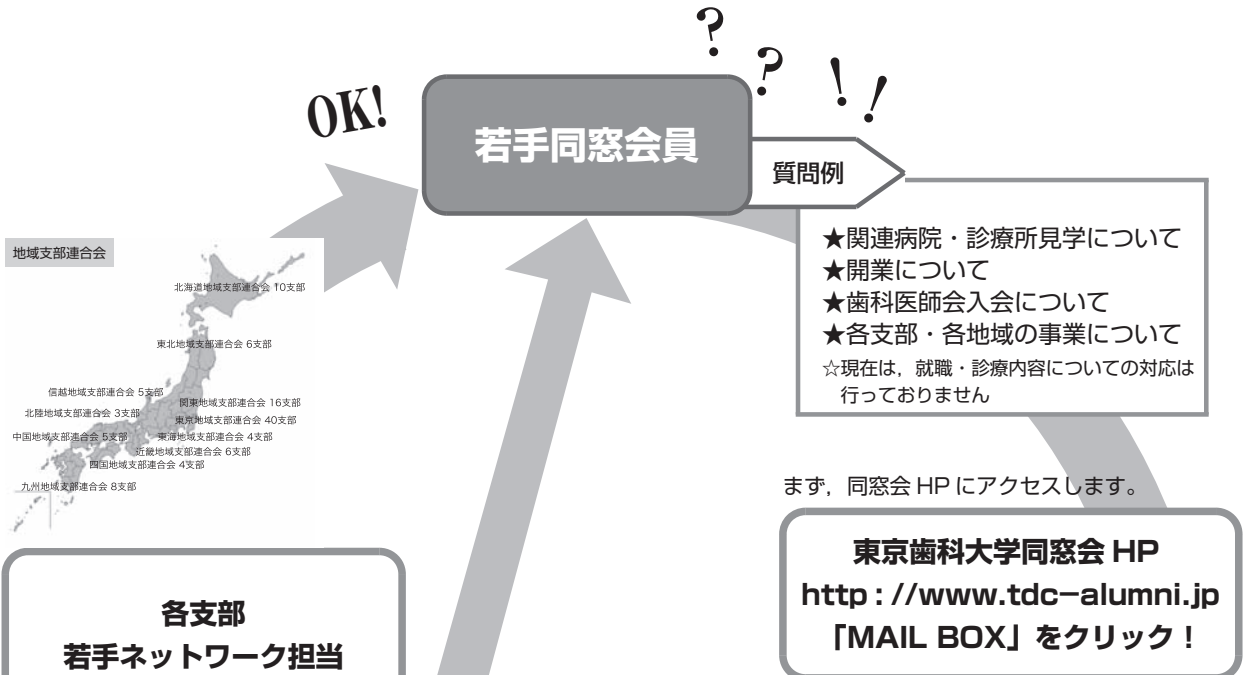
このネットワークは、歯科界の将来を見据えた重要なものと考えており、東京歯科大学から全国の歯科医師へ大きな輪が広がることを目指したものです。

是非、若い先生からの質問・相談への対応など、ご支援御協力をお願い申し上げます。

 是非、同窓会 HP にアクセスの上、「若手ネットワーク MailBox」にメールを送信して下さい。

東京歯科大学同窓会 HP : <http://www.tdc-alumni.jp>

若手支援ネットワークシステム



トップページの「MAIL BOX ご意見・ご質問」をクリックし、「若手ネットワーク MailBox」へ入ります。

- ★氏名
- ★卒業年度
- ★連絡先・方法
- ★質問・相談内容

若手ネットワーク MailBox のフォームに必要事項を記入して送信してください。

若手ネットワーク MailBox

【※】は必須入力項目となっております。

◎ 氏名:	<input style="width: 80%;" type="text"/>
◎ 卒業年度:	平成 <input style="width: 20px;" type="text"/> 年卒
◎ 所属支部:	<input style="width: 80%;" type="text"/> 支部 (未所属の場合は、入会予定の支部を記入)

◎ 相談・質問したい内容について、チェックして下さい。

- 1) 関連病院・診療所見学について
- 2) 所属支部またはこれから所属する支部での開業について
- 3) 歯科医師会入会について
- 4) 各支部への入会について
- 5) 各地域事業 (支部総会・忘年会・新年会・学術講演会など) への参加について
- 6) その他

なるべく詳しく内容を記載して下さい。

重点事業へのアプローチ

事業推進部ワーク・ショップ開催さる

事業推進部 常任理事
小林 慶太



[はじめに]

同窓会本部では、前大山執行部より同窓会事業・機構改革に取り組み、昨年の現矢崎執行部発足から、これまでの保険部、学術部の事業を統合し事業推進部として発足した。

この事業推進部は、これまでの保険委員会、学術委員会に加えて若手ネットワーク委員会、大学連携委員会、シンクタンク委員会の5委員会で構成され、各委員会委員が相互に連携した活動で2年目を迎えている。

1年目を振り返り、事業推進部として「各委員会事業の役割と委員会構成」、「現在行っている事業の評価とこれからの方向性」、「執行部重点課題である支部未入会対策と会費問題」について早急に検討する必要性が感じられるようになった。

そこで、事業推進部として同窓会事業をより効率的に進めるため

に、事業推進部に関連する3つの案件について、事業推進部委員ならびに関係役員が参加しワーク・ショップが開催されたので報告する。

[実施内容・方法]

2013年の1月10日と2月7日の2日間の日程で、水道橋校舎13階セミナー室にて行われた。

今回取り上げたテーマ

1. 事業推進部の機構構成の問題点
2. 同窓会を活性化させるための事業展開とその方向性
3. 同窓会支部未加入対策と会費のあり方

以上3つについて、第1日目にグループディスカッション、第2日目に各グループの発表と総合ディスカッションを実施した。

グループディスカッションでは、参加者56名が6つの班に別れ3テーマを分担してディスカッ

ションを行った。それぞれの班でKJ法を用いたキーワードを基に、問題点の抽出とその解決策について検討した。

総合討論では、テーマごとに担当した班から結果発表と意見交換を行うことで事業推進部の方向性を模索するとともに、関係委員が共通認識を持って事業の推進に当たることが期待された。

[ワーク・ショップの結果と分析]

今回は、結果と分析については誌面の都合もあり、「3. 同窓会支部未加入対策と会費のあり方」についてのみ報告し、他の2題についてはまたの機会に委ねたい。

まず、図1に、担当した班のまとめを例に示す。手順として、このテーマに関連する問題点をKJ法にて参加者が書き出し、書き出したカードを関連する5つの事項(島)でまとめて括ったものである。

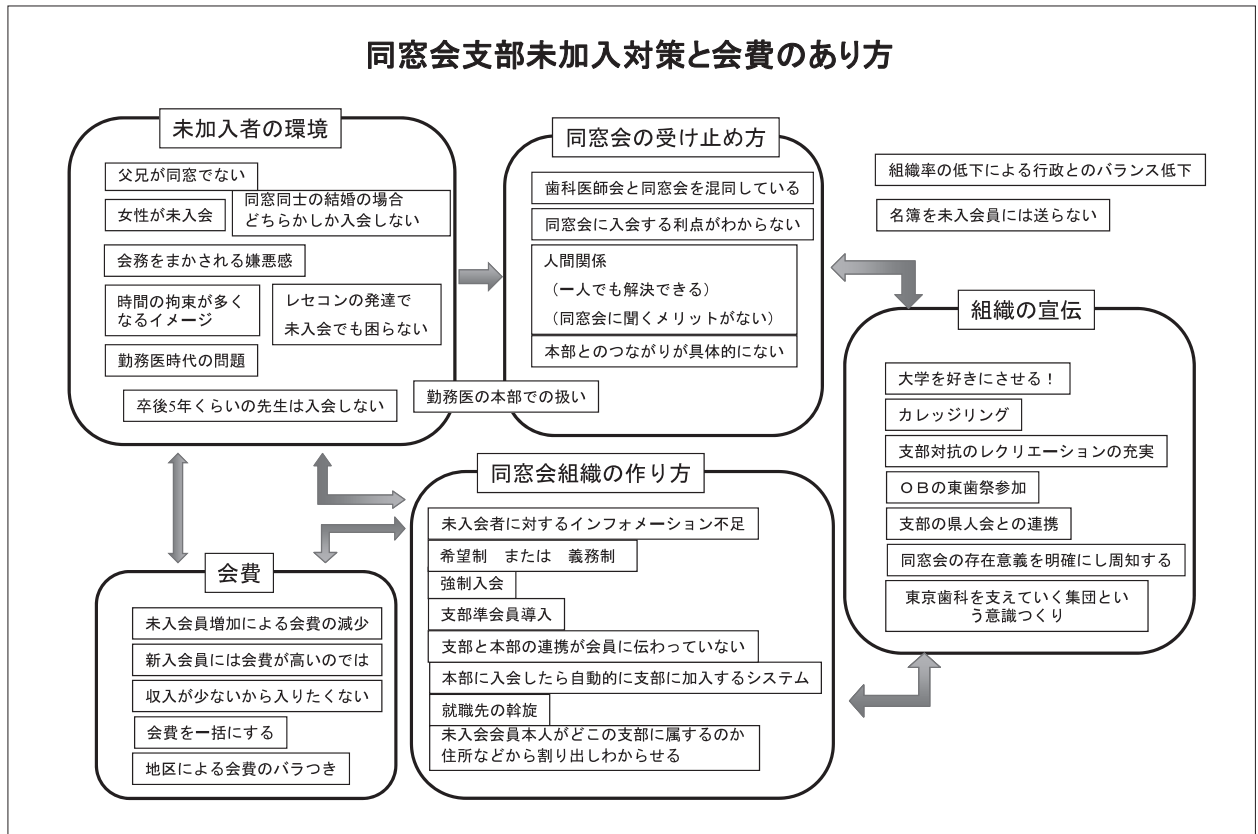


図1

このグループでは、参加者から出された様々な問題点を検討整理し、「未加入者の環境」,「同窓会の受け止め方」,「組織の宣伝」,「同窓会組織の作り方」,「会費」の5つの事項を問題点の解決を行うための課題とした。それぞれの項目で上げられた問題点について見てみる。

「未加入者の環境」

- ・父兄が非同窓
- ・女性会員の未加入
- ・同窓同士の結婚の場合どちらか一人が加入
- ・加入後の会務の負担
- ・未加入でも不自由しない
- ・勤務医時に同窓会と分離
- ・卒後5年目までは同窓会に関心を持つ余裕が無い

これらの問題点は、未加入者が多い卒後10年目までの傾向を如実に

に表していると思われる。環境を理解し支部加入促進をはかるための環境が読み取られる。

「会費」

- ・支部未加入による2年目以降の会費未納
- ・新進会員における適正会費
- ・支部会費の金額差
- ・会費一括納入

近年の会費納入額の減少により、同窓会事業に影を落としつつある状況を鑑みれば、現実的に早急に対策を講じるべきである。これについて、会費の金額、納入方法等対応すべき方策はあるが、支部未加入対策、若手同窓への支援事業と会員であることの意味について理解を得ることが出来れば、間接的効果として会費納入率も上がると思われる。

「同窓会の受け止め方」

- ・同窓会と歯科医師会に関する理解が不十分
 - ・同窓会支部加入の利点が解らない
 - ・同窓会に頼る必要がない
 - ・本部同窓会との繋がりが希薄
- 同窓会の本来の活動や会員との連携が、理解されていないことが問題として上げられた。歯科医師会や同窓会に関わることが、社会的責任や組織とつながることの重要性よりも、個人の負担が増えることの煩わしさが優先しているのであろう。

「組織の宣伝」

- ・大学を好きにさせる
- ・大学に親しみを感じさせるツール（カレッジリング等）
- ・東歯祭へのOB参加
- ・県人会と各支部の連携
- ・同窓会の存在意義の明確化

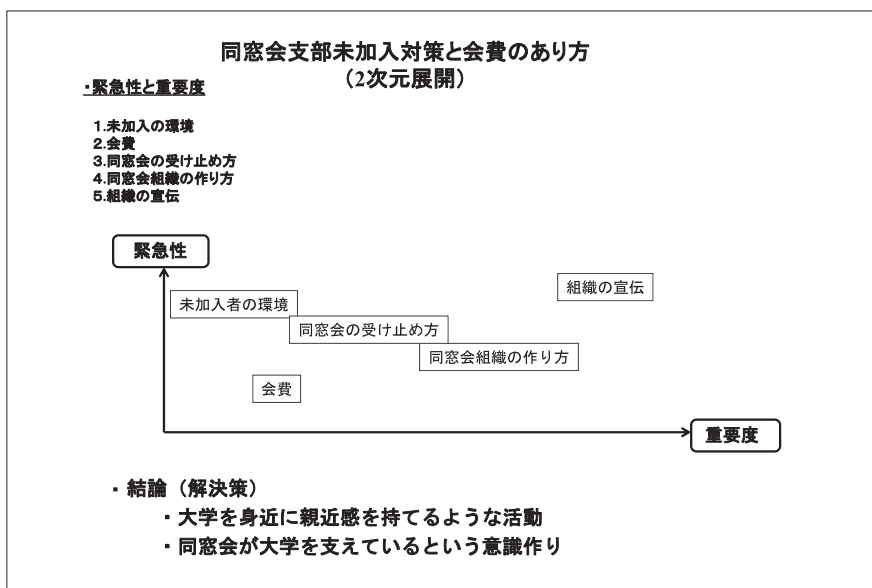


図2

・東京歯科を支えるという意識改革

学生時代から同窓会を意識し、理解させることで同窓会を身近に感じてもらう。卒後の母校愛、同窓会会員としての誇りを醸成することで、各自が自主的に同窓会に参加し、支える意識の芽生えが期待できる。

準会員（学生）、新進会員（5年目以下）への積極的アプローチが必要となる。

「同窓会組織の作り方」

- ・支部未入会者への案内を徹底させる
- ・支部加入の選択（希望制・義務化）
- ・支部準会員制、勤務医会員制
- ・本部が加入支部を指定し加入するシステム
- ・就職斡旋等情報を提供

会員種別を多様化し同窓会組織への加入の容易さを改善、支部と連携した会員情報の共有化で未加入対策を念頭に置いた、同窓会組織作りの検討と実施することの必

要性が感じられた。

今後は、新進会員制度の導入により柔軟な対応が可能となったので、各支部においても支部会員としての正規加入以外の会員種別（たとえば、勤務会員、家族会員、歯科医師会未入会の支部会員等）を、ご検討いただければと思う。

【問題点の解決に向けて】

次に、問題点の抽出と整理された内容を基に、2次元展開法による、問題点の解決策を見てみたい。

図2に示すように、問題点から導かれた5つの項目を、難易度と緊急性の2次元グラフにプロットし、優先的にどの項目から対策を講じるべきか検討する。

緊急性の順番で見ると、組織の宣伝、未加入者の環境、同窓会の受け止め方、同窓会組織の作り方、会費、の順になる。

重要度の順番では、組織の宣伝、同窓会組織の作り方、同窓会の受け止め方、会費、未加入者の

環境、であった。

これらの関係をグラフ上で勘案すると、緊急性と重要性の高い「組織の宣伝」が、この班では対策を講じるべき項目となった。引き続き、具体的解決策を検討したところ、1. 大学に親近感を持てるような活動、2. 同窓会が大学を支えているという意識作りを実践し、大学と一体化した同窓会組織の構築を早急に考えるべきである。

総合討論では、同じテーマで検討を行った班より、「クラス代表、クラス会との連携、情報交換の機会をより多く作る」、「同窓生の連絡先の把握」について追加発言があった。

現時点で、事業部が行っている方向性とリンクしており、意見を基にした細かい対応策も実施してゆきたい。

【まとめ】

ワーク・ショップで取り上げられた3つのテーマは、今後の同窓会の方向性について大変重要なテーマである。

グループディスカッションを通して、問題点の抽出により対応すべき問題点を絞ることが出来て有効であった。また、総合討論も含め各委員会委員が、事業推進部として考えること、目指すことの共通認識を持てたことが非常に有意義なワーク・ショップであった。

お読みになった同窓各位からのご意見を、お待ちしております。

参加された関係委員、役員のみなさま大変お疲れ様でした。

将来の同窓会を担う 新進会員へのオリエンテーションの開催

同窓会会長 矢崎 秀昭

本年も卒業生、さらに本学の研修医を修了された方への同窓会の存在意義や、特に若手会員に対する同窓会の活動の現状についての説明会が、大学の全面的な協力のもとに開催されました。

平成25年3月14日に24年度の卒業生に対して、さらに3月18日に水道橋病院臨床研修医修了者、3月25日に千葉病院臨床研修医修了者、3月26日に市川総合病院臨床研修医修了者へのオリエンテーションが開催されました。

若手ネットワーク担当や事務局の多大な努力のもと作成された資料を配布し、同窓会の機構や半世紀にわたり継続して開催されているTDC卒後研修セミナー、さらに各支部における活動について、担当の理事や委員により説明が行われました。また、本

年度から特に卒業5年目までを新進会員として、会費の減額、新進会員のつどい開催や、支援セミナーについての説明が行われました。

その中で、最近、著しく多くなっております女性の卒業生や新進会員にたいして、ご自分の経験も交えて、生涯にわたりどの様に歯科医療に携わってゆくべきかについての女性の担当理事や委員の話などに、大変熱心に聴き入っていました。

今後とも同窓会として新進会員や若手の会員への積極的な働きかけを行い、将来、各地域の支部に必ず所属して戴き、同窓会やさらに歯科医師会の中核として活躍してくれることを大いに期待しております。



新入会員オリエンテーション



水道橋病院臨床研修歯科医オリエンテーション



千葉病院臨床研修歯科医オリエンテーション



市川総合病院臨床研修歯科医オリエンテーション

会務アラカルト

第106回歯科医師国家試験合格発表

今年から若手同窓との連携推進事業がはじまり、母校在學生や他校卒業の大学院生、臨床研修歯科医は同窓会準会員に、そして卒業して5年間の先生方は新進会員となりました。そんな若い世代に話題が集まる年の春、3月15日(金)に卒業式を迎え晴れて同窓会員になった先生方にとって期待と不安の第106回の歯科医師国家試験の発表がありました。“昨年は全国一位、果たして今年は”と全国同窓の先生方も待ちに待っていたことと思います。3月19日(火)、さっそく連絡が入りました。全国で新卒2,373名受験して1,907名合格で合格率80.4%、既卒者もあわせた全体では合格率71.2%という厳しい状況の中、母校東京歯科大学では、新卒者は131名受験し127名合格。合格率96.9%と国公立を含め昨年につづき全国一位となりました。しかも合格者数も他の私立歯科大学2校のみが105名、104名と100名を超えたのに対し、われらが同窓は127名と最も多くの若き歯科医が歯科界に飛び立ったことになりました。既卒者では4名のうち3名が合格し、新卒既卒を合わせましても96.3%と第一位となりました。昨年につづき2年連続の快挙、国公立大学と互角に並ぶ母校の力強さ、並大抵の努力ではなしえない偉業といっても過

	全国		東京歯科大学		
	全体	新卒	全体	新卒	既卒
出願者	3758	2781	150	146	4
受験者	3316	2369	135	131	4
合格者	2364	1905	130	127	3
合格率	71.3%	80.4%	96.3%	96.9%	75%

言ではありません。

勿論一夜にしてなりえたものではありません。平成12年頃一時は低い順位に甘んじていた時代もあったようですが、日本一、世界でも最先端の歯科大学をめざしこの高いレベルに到達したことはまさに東京歯科スピリットそのものです。この厳しい歯科界の現状で若者たちが希望をもって歯科の道を選び、そしてそれに応えようとする母校の頑張りに拍手を送りたいです。こんなことを考えているとますます東京歯科大学の同窓でよかった、そして東京歯科大学が大好きになってゆきます。全国同窓におかれましても、せっかくの機会ですので母校に対し感謝と母校愛を心に感じてみたらいかがでしょうか。

アイ ♥ TDC

さて母校愛の表し方もいろいろあります。四国愛媛県支部の高岡元文先生(平成4年卒)は、昨年個人的にTシャツを作ったそうです。白地に I ♥ TDC とくっき

りとした赤い字をつけたオシャレなTシャツです。支部の先生方がこのTシャツをきて楽しそうに歓談している写真がとどきました。こんなお便りもつけてくれました。抜粋ですが、「同窓会事業にどの地域も若手の出席率がなかなか伸び悩んでいるとお聞きします。そこで何か面白いことをと思い…自腹ですが(笑)、昨年の夏にステッカーを配布し、車等に貼ってもらっています。昨年の冬にTシャツを作成して、若手に配布しました。年末懇親会の景品のひとつとして、アイラブTDCタオルを20枚いれました」。今年の四国地域支部連合会総会でもこのTシャツを皆さんに配ったそうです。全国津々浦々、母校愛を



目に見える形にといろいろ楽しい試みがありそうです。これぞというものがありませんでしたら是非ご紹介ください。

母校水道橋キャンパス竣工へ着々

東京歯科大学水道橋キャンパス竣工に関連する行事が着々と計画されています。竣工式は7月19日（金）、竣工記念式典・祝賀会が8月31日（土）に開催されます。そして9月2日（月）の開校式へと進みます。水道橋、千葉、市川の3拠点が一体になり次なる時代のステージへ、そして同窓会としては母校とのより深い連携のもと、血脇記念ホールを象徴に、さらに輝かしい歯科界にする起点となる記念すべき時が近づいています。

さて水道橋への移転ですが、母校と水道橋、特に三崎町とのつながりは明治の時代にさかのぼります。明治33年頃、日清戦争も終わり日本はますます活気づく頃、血脇先生は高山先生から高山歯科医学院を引き継ぎ学校の名前も東京歯科医学院と改め、伊皿子から神田小川町の東京顕微鏡学院の借り校舎に移して開校しました。しかし、顕微鏡学院の都合で場所が足りなくなり9月には三崎町一丁目にあった大成中学校の教室をも借りなければなりません。そんな頃、血脇先生は、三崎町二丁目八番地にあった広い長屋を見つけ、家賃28円を払って血脇歯科治療所の看板を掲げました。このあたりから三崎町とのつながりは始まったようです。しかし血脇先生にとっては、借り物の教室ではなく、自分で作った校舎での教

育を望んでいたのは当然で、そんな折、血脇歯科治療所の隣にある平岡邸を譲りたいとの話がもちあがりました。経済的にも苦しい時だったと思います。それでもなんとか算段をつけ、借地でしたが家屋を買い取り、平屋一棟に教室をつくり、明治34年の2月には新入生を迎える運びとなりました。そしてそれから4、5年が経ちました。明治39年、そこに立派な新校舎を作り上げたのです。2階建ての本館校舎、そして付属の平屋校舎をつくりました。日本の歯科医学を担うに相応しいアカデミックな印象を備えた素晴らしい白亜の新校舎を誕生させたのでした。しかし苦労は続きます。大正12年関東大震災により校舎が崩壊、振出しに戻ってしまったのです。しかし血脇先生の志はかわることなく、昭和4年、三崎町の地に、戦前・戦後にわたり多くの同窓が学んだ水道橋校舎をつくり上げたのでした。当時、歯科界全体が喜び、祝い、また学生たちも「ちょ



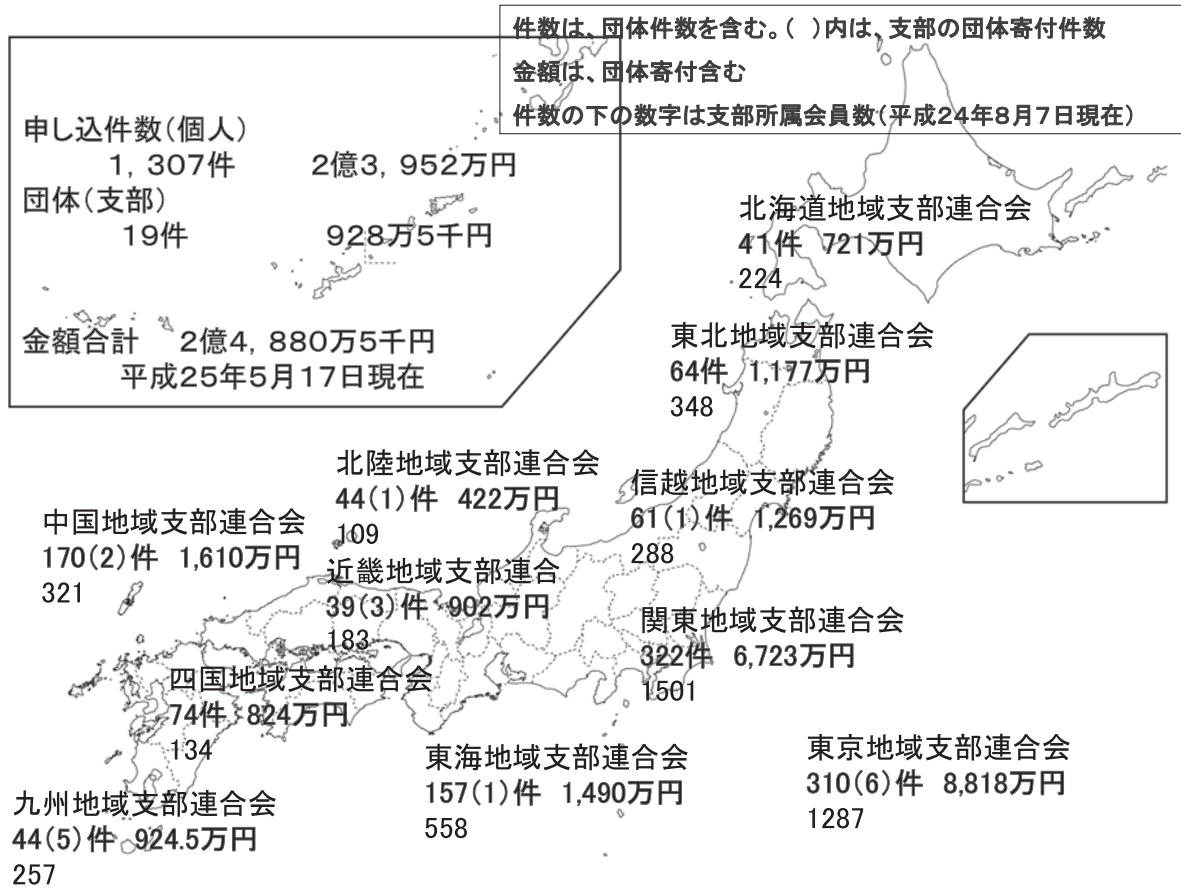
うちん行列」で盛大に祝ったと記されています。その後、本校は稲毛に移転しましたが、TDCビル水道橋病院として、100年を超える歳月、水道橋と東京歯科大学との絆はしっかりとつながっていたのです。

血脇記念ホールへの寄付協力お願いします

血脇記念ホール建設への寄付協力もあと一息で2億5千万円に達するところまで参りました。誠にありがとうございます。竣工式や祝賀会まで数か月となりますが、できるだけ早いうちに何とか3億円を超えればと期待しております。図の5月17日現在の協力状況を見てみますと、地域によるばらつきが大きいことがわかります。1,000万円を超えた地域支部連合会は6連合会ありますが、件数の下にある会員数をみながらその数字を見てみますと、少ない会員数ですがたとえば会員一人あたりに計算してみると、数字だけではみえない地域の頑張りが浮き出てきます。同窓の尚一層の協力で素晴らしいホールを完成させてもらい、母校と同窓との連携の象徴としていければと思っております。まだ寄付されていない方におかれましては、よろしくご協力のほどお願いします。

一県一評議員の経過措置は

平成24年度から評議員の選出を地域支部連合会の会員数100人を単位に決めてゆくことになりましたが、会員の少ない地域では評議員会にでられない県支部も出てくることから、2年間の経過措置と



して、少なくとも一県支部に一人の評議員は評議員会に出席できるようにしました。この経過措置の意味は、2年後の平成26年から自動的に経過措置が消滅するというのではなく、情報の共有ができる全国同窓会組織、地域支部連合会を核とした足腰のつよい同窓会組織をつくりながら、経過措置のあり方、評議員会のあり方を議論してゆきましようとするものです。本執行部としては、めざす目標に達するまでにはもう少し時間がかかるということから、この経過措置をあと2年延長し、次の2年間でさらにしっかりとした体制を築き上げ、経過措置が終了しても今以上に同窓の心が丸となれるよう同窓会改革を進めていこうという方針をだしました。

新進会員（卒業後5年間）のつどいが7月28日(日)に開催されます
平成21年度から25年度に母校を卒業した先生方は本年度より新進会員となります。我々同窓会にとって若い先生方は無限の可能性を秘めた大切な宝です。今まで、卒業後同窓会のことを知らずに同窓会離れへとつながっていく風潮がありました。同窓会では、新進会員の近くに位置をおき、会費減額、セミナー割引、若手研修セミナー、若手ネットワークなどいろいろな面から応援し将来の同窓会、そして歯科界を託そうとしております。

若い先生方は同窓会報、同窓会HPもあまり見ないと聞いていますので、新進会員について、そして自分が新進会員であるかも気が

付いていないのではと思います。そこで、全新進会員に今回の企画をお知らせして、できるだけ多くの先生方に集ってもらい、face to faceで同窓会の意味を感じてもらおうと企画が始まりました。

さっそく、新進会員世代の先生方とコンタクトをとり企画の相談をしました。やはり若い人の発想は素晴らしく、次から次と革新的なアイデアが出てまいりました。「自分たちがプレゼンテーションをしたい」という意見もあり、早速その方向に進めることになりました。まさに、“若い人のための会を、若い人の考えと感性で企画してもらおう”とするコンセプトなのです。主役は若い先生です。挨拶は短めに、中身部分を長くする、そして終わったら役員や委員

も若い先生方に交じって懇親するビールパーティーへと計画しました。新進会員約600人おりますが、出席者で会場がいっぱいになることを願っています。

さて、そんなことで新進会員の先生方には近々ご案内が届くと思います。届かない方は、自分の連絡先が間違っていて同窓会に登録されていることとなりますので、かならず同窓会本部まで連絡してください。欠席のかたも必ず返信をください。

同窓会がはじまって118年たちますが、5学年全員に声をかけるという初めての企画です。この記念すべき第1回新進会員のつどいに是非参加をお願いします。

共済制度の見直しの方向は

昨年より厚生委員会では共済制度の見直しを行っています。平成24年度評議員会でその報告を協議題の際に行っていますが、現行の負担金が年3,000円に対し、8歳のお祝い金が5万円、死亡時弔慰金が10万円ですが、このままでは制度の破たんはすぐには起こりませんが、繰越金が漸減するということでした。委員会の計算では首都圏大災害がおけると想定して約1億800万の共済金が必要となると試算しています。平成23年度時点では東日本大震災の影響もあり繰越金は9,000万円を下回りました。

本年度の厚生委員会の報告では、更にシミュレーションを進め検討を続けております。そしてこの度、昨年の評議員会でのご意見をもとりに結論を出しました。

共済制度を存続させる、そのためには財政基盤をしっかりとさせ若い先生への責任を果たせること、また予期せぬ震災に耐えられるようにすること、などから、共済負担金は従来どおり3,000円、共済金等の額は現行通り（死亡時10万円）としますが、8歳お祝い金（5万円）を受けた先生の死亡時弔慰金を現行の10万円から5万円に減額することが提案されました。シミュレーションによれば、この減額により、繰越金の減少が回復することが期待できます。ただ、今後の会費納入率が下がることがあれば財政状態は予想に反して悪化するもありますので、5年後に再度見直しをすることです。第3回理事会においても、この見直し案が提案され、その方向で進めていくことで承認されました。

全国歯科大学同窓会・校友会主催の石井みどり総決起大会が開催

全国の28歯科大学・歯学部の同窓会・校友会が一つになり次の

参議院選挙にむかって石井みどり総決起集会を開催しました。5月26日、日曜日の午後1時半に笹川記念会館に全国同窓を中心にして1,000名以上が集まり、力強く石井みどり先生を応援しました。主催者代表として本同窓会矢崎秀昭会長が挨拶され、今後の歯科界の発展のため政界において石井先生が大いに活躍することが大切と全国同窓に呼びかけました。全国の歯科大学の同窓会長から花束やだるまが贈呈されたり、支援の言葉が送られ、ご本人から力強い決意表明を聞くことが出来ました。本同窓会会員の出席も多く120人を超えました。また同窓の来賓として、東京都歯科医師会から会長の高橋哲夫先生（S46年卒）、専務理事の勝保正之先生（S55年卒）、衆議院議員の白須賀貴樹先生（H12年卒）が招待されておりました。今後全国で決起集会が開催されると思いますが、全国同窓会は一丸となり「石井みどり」を応援しております。



東京歯科大学同窓会各種委員会委員

(平成25年1月～平成25年12月)

同窓会創立120周年記念事業準備委員会

◎高橋利武(S42卒) ○岡野昌治(S52卒) 白田準(S53卒) 山本英之(S55卒)
佐々木葉子(S60卒) 矢郷生和(S62卒) 福田謙一(H2卒) 福本恵吾(H2卒)

会員管理システム検討委員会

◎高原正明(S52卒) ○白田準(S53卒) 大塩美樹子(S61卒) 岡村美恵子(S61卒)
木暮隆司(S62卒) 高橋潤一(H4卒) 市川敬一(H6卒)

敬称略 ◎印は委員長 ○印は副委員長

平成25年度 新入会員(第118回卒業生)

氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
青木俊憲	越智弘泰	杉田大	西堀優美	水野高夫
秋草岳	鬼谷薫	鈴木歩	西宮文香	峰岸沙希
秋元佐和子	覺本貴仁	鈴木春香	根津裕一	宮下遼
穴吹麻莉	角山明日香	隅田賢正	納賀秀則	宮島慶太
新井知枝	笠原可愛	五月女寛明	野田美穂子	宮吉教仁
有泉高晴	柏木航介	染屋智子	野田祐貴	三好耕平
有間英仁	勝見吉晴	高橋香央里	橋村頼人	室田有香
飯田雄太	金子悟	高橋美早	橋本宗典	望月里美
池上良	釜谷夏紀	多田恵子	浜口大樹	森井浩太
池田麻乃	河合章太	田中章啓	早川和也	森田純晴
池田一洋	川西恵理	田中らいら	平出佳典	森田直登
石田圭太	川村利憲	田端倫子	廣内英智	柳田治朗
石田結実香	木下由加	崔大煥	福田仁	山影朋子
石橋真乃介	木村翔馬	鶴岡勇輔	福田展康	山下慶子
井田裕己	木村基善	手島麻子	藤原由起子	山田祥
井戸川香代	京極啓	富永浩平	風呂谷真穂	山田正博
猪原千佳	古賀翼	直野孝彦	細井秀悟	山本恵史
上原直大	小林史枝	永井諭子	細川ゆり子	由島達郎
宇田川小百合	小見山和也	中尾洋彰	前田千晶	吉川幸輝
海野航	蔡涵雅	長坂俊幸	真木孝明	吉野直之
遠藤亜希	齋藤馨	中嶋麻優子	眞下ゆうこ	米山瞬輔
大嶋可奈恵	齋藤祐太	中條拓実	増田智俊	來田祐実
大島俊彦	澤田光弘	仲谷龍太郎	松井嵩昌	林士凱
太田拓志	重藤玲子	中西惇	松本亜弓	
太田悠策	篠原亜貴	長嶺優樹	松本尊治	
大矢恭太郎	白澤里佳	西岡千尋	實兼由希	
小澤はるか	新開善文	西野辰太郎	水谷匡佑	

以上131名

理事会のうごき

第2回理事会

平成25年3月23日（土）午後2時30分

於 特別会議室

出席 28名

議長 矢崎会長

会長挨拶

桜が満開の時期となり、母校が2年連続で国家試験合格率1位となった。学生がこのようながんばりを見せていることから、同窓会としても若手支援をしっかりと行っていくことを改めて認識している。今年も卒業生および臨床研修歯科医修了者に対するオリエンテーションを行ったが、同窓会の内容を周知することが出来たものと思われる。いずれ支部の活性化につながることを期待する。

会費収入が少しずつ減少し、財政状況が厳しい状況に追い込まれつつある。事業を維持しながら、経費削減がはかれるよう、知恵を出して頂きたい。

寄付のお願いについては、文書を郵送した効果が少しずつ現れているようであるがまだまだ予定額には至らず、今後もいろいろな対策を考えていく必要がある。

黙 禱

渋谷支部・片岡利郎氏はじめ10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

- 1) 平成25年2月13日から平成25年12月21日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
 - (1) 総務・厚生部：①地域支部連合会長交代について2件報告。②支部長交代について6件報告。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について6件報告。④逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。⑤厚生委員会報告。⑥会費、共済負担金納入免除願いが2件提出され、受理した旨の報告。⑦母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑧情報ネットワーク推進会議報告。⑨同窓会・会務運営協議会報告。⑩会員管理システム検討委員会報告。⑪同窓会創立120周年記念事業準備委

員会報告。⑫新進会員のつどいについて運営委員会開催報告。⑬東京歯科大学病院診療録指導委員会委員の推薦について報告。

- (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について8件報告。②平成25年度2月末日現況報告。
 - (3) 渉外部：①渉外委員会報告。
 - (4) 広報部：①広報委員会報告。
 - (5) 事業推進部：①全体委員会・企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2013について報告。④シンクタンク委員会報告。⑤若手ネットワーク委員会報告。
- 以上の会務報告について、全て承認。

協議事項

- (1) 推薦会員入会願いについて1件承認。
- (2) 母校創立120周年記念事業募金協力推進対策について検討、継続審議。
- (3) 過年度分会費徴収の一部中止について協議、継続審議。
- (4) 一県一評議員の経過措置について執行部案の提案があり、協議の結果、承認。ただし、評議員会のあり方について、さらなる検討を加えることとなった。
- (5) 総会の廃止について執行部案の提案があり、協議の結果、承認。
- (6) 血脇記念基金、同窓会基金の内規見直しについて作業を継続していくことを承認。内容に関しては、継続審議。
- (7) 会則施行細則第4条を施行することが事実上不可能であるため削除したい旨の提案があり、協議の結果、承認。
- (8) 平成25年度学年代表者会について日程と内容が提案され、協議の結果、承認。
- (9) 新進会員のつどいの日程と内容について提案、協議の結果、承認。
- (10) 新進会員会費徴収の銀行口座自動引き落としの一部導入について提案があり、協議の結果、承認。
- (11) 7月の参議院選挙に対して日歯連盟から活動に対する協力依頼があり、協議の結果、承認。
- (12) 評議員のあり方について、再度理事会にて協議する旨の確認。

東日本大震災対策部会



当たり前の幸せ，日常への感謝， そして忘れてはいけない

仙台市開業 駒形 守俊
(平成2年卒)

今日も小学6年生の息子が元気にテニスに出かける。2年前の東日本大震災後は大好きなテニスをする事が出来なくなった。小学2年生からテニスを始め震災が起きるまで毎日、毎日3時間の練習をしていた。しかし震災で通っていたクラブの施設は被害が出て無期限の休業となり、約30箇所ある仙台市営のテニスコートも全面使用出来ない状況であった。もちろん仙台市内はもとより宮城県内は広域的にライフラインが途絶えた状態、テニスなんてやっている場合ではなかった。幸いにも我が家は仙台市内の内陸部にあり、沿岸部のような悲惨な被害はなく震災後4日目にはライフラインが復活し、食料やガソリン等は若干の不自由はあったが日常生活にはさして支障のない状態であった。震災後約2ヵ月経ち、同じテニスクラ

ブの父兄から郊外のテニスコートで練習が出来るよ！と連絡があり集まれる子だけ集まり練習をした。ずっと毎日練習をやっていた子が2ヵ月以上やっていないためボールがまともに当たらない、ミスばかり、でも子供達の顔は皆うれしそうな笑顔、満面の笑みと表現しても足りないくらいであった。親たちはそれを見て目に涙を浮かべていた。今まではなにも疑問も持たずに当たり前でテニスが出来た、それが自らの力ではどうすることも出来ない震災で出来なくなり、その現実に対してどのように理解をして良いか分からず、理不尽ともいえる事と思ったに違いない。しかしテニスを出来るこ

とに対しての幸せや感謝の気持ちを知り、色々な面で子供達は一回りも二回りも心が強くなったのではないかと思う。

現在の私の生活や診療は震災前とほぼ変わりなくなっている。如果说えれば診療所の駐車場のひび割れがそのままとか、近くの15階建の約200戸のマンションやショッピングセンターが被害のため取り壊しており、人の流れが変わり患者さんが少なくなったかもしれないと言う事くらいで平穏な日々を過ごしている。

しかし震災後1年経過した昨年の今頃は御遺体の身元確認のため毎日宮城県警本部に行き、夜7時



大好きなテニスをプレー



診療所駐車場のひびわれ



取り壊し中のマンション

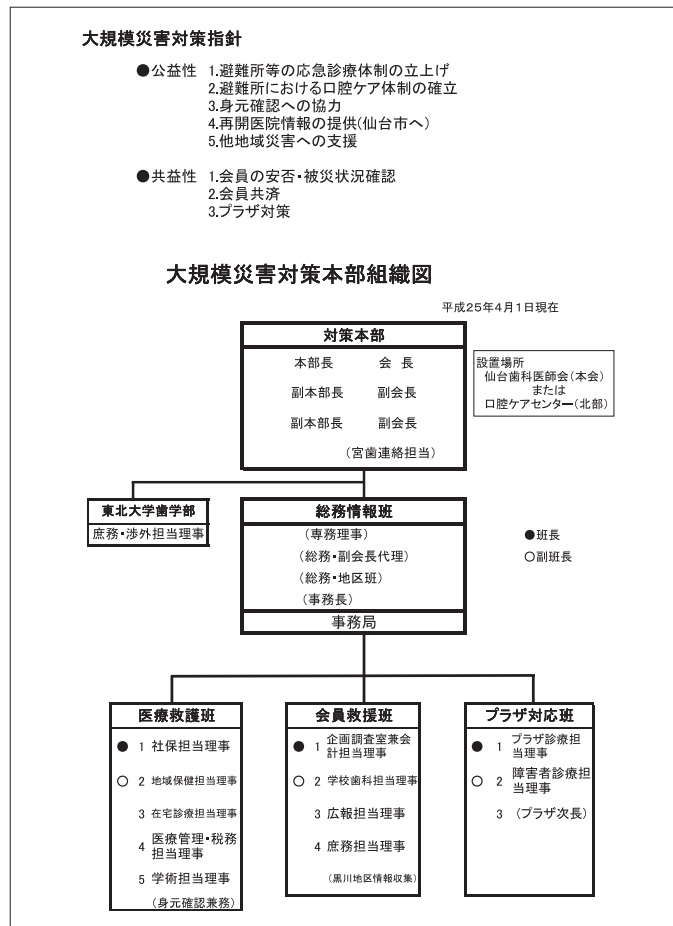
から9時近くまで先生方から頂いたカルテ情報を起こし、御遺体の歯式チャートとの照合を行っていた。最近はそのカルテ起こしや照合作業の件数も少なくなり月に1回程度になってきている。現在宮城県内での震災身元不明者が49名（県内において御遺体で収容された犠牲者9,535人、99.5%が身元確認された。4月10日現在）と今もなお御家族のもとに帰れない御遺体がある。心痛極まりない。こればかりは今すぐにはいかないが少しでも早く帰られるよう今後も出来るだけの協力をしていきたい。余談になるが震災後の医師の活動や我々の身元確認活動等を書いた書籍「救命」が新潮社から出版されたのでご興味がある方はご一読して頂ければと思う。

また日常の診療では遠く女川町や南三陸町で津波などの被災に遭われて、故郷をあとにし、現在当院の近くに住んでいる被災者の方が何人か通院されている。大切な家族や家を失くし心には計り知れない大きな傷を持ち、さらには未だ地元に戻ることも出来ず、仕事のことなど将来に不安を持って生活をされている。以前に比べ被災者や被災地の報道等が減り、人々の心から少しずつ離れて行き、風化してきたのではないかと危惧をも言われている。実際、震災を経験した自分でさえも喧噪の中で忘れてしまう事もあるが、月に1度の照合作業や診療時に被災者の方々とお話をする度に2年経っていてもまだまだ復興までは遠い道のりだと実感するとともに、日常への感謝の気持ちを改めて思う。

この原稿を書いている矢先に、4月13日未明に淡路島で震度6弱の地震を観測したと報道があった。当日朝、仙台歯科医師会大規模対策本部医療救護班は万が一のため何時でも出動できるよう班長が待機命令を出した。その後、同じ13大都市歯科医師会の神戸市歯科医師会と連絡を取り被害の状況から判断し正午に対策本部長（仙台歯科医師会会長）より待機解除が言い渡され、現地での救護活動は行わなかった。あの震災を経験した私たち歯科医師会がその経験を生かしていち早く対応をした事は評価できることと思う。地震大国日本といわれ、いつどこで大きな地震が起きるか分からない現実はどうすることも出来ない。私たち

は常に危機管理の意識を高く持ち対策を検討し、大規模災害が起こった時にどう対応できるかが重要なのではないかと思います。このつらい経験を忘れずに、自ら情報発信をして少しでも多くの方に知って頂き、もしもの時に僅かながらも役に立ってもらえればと心より思う。また時間経過とともに東日本大震災や被災地のことを忘れていってしまうかもしれないが、先述したようにまだまだ復興どころか復旧もままならない地域があり、人々はその中で苦しい生活をしながら頑張っている事を忘れて頂きたい、そして私自身も当たり前前の幸せをかみしめ日々への感謝を忘れずに歩いて行きたい。

仙台歯科医師会大規模災害対策本部



東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と 同窓会役員との懇談会

第172回日歯代議員会1日目の3月14日(木)の午後6時より飯田橋のホテルメトロポリタンエンドメントにおいて東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員4名，日歯代議員19名，都道府県歯会長5名，同窓会役員19名，そしてご来賓として母校の金子 讓理事長と井出吉信学長，昨年の衆議院議員総選挙で見事ご当選なさった衆議院議員白須賀貴樹先生がご列席くださいました。

佐々木眞澄常任理事の司会進行で，宮地建夫副会長が開会の辞を述べ，まず矢崎秀昭会長より「全国的に同窓数が徐々に減少するなか，各地区より日歯の代議員に選出されるということは，その地区で如何に先生方が活躍されているかの証である。次期東京都歯科医師会会長が高橋哲夫先生に決定した。その結果，現在6名の都道府県歯会長がいることになる。この事は母校にとっても素晴らしいことである。それぞれ大変な課題を抱えていることは推察されるが，今後とも頑張ってくださいたい。昨年の総選挙で白須賀貴樹先生が見事ご当選した。現政権においては，一人でも多くの歯科医師の国会議員が必要だと思われる。今夏の参議院議員選挙では，島村 大先生が神奈川県自由民主党公認候補に決定している。前日歯連盟理事長であり歯科界にとっても有用な人材である。いよいよ母校が7月に水道橋に移転する。母校は素

晴らしい勢いで活気づいているが，色々な難題も抱えている。今後さらなる母校，そして同窓会へのご協力，ご支援をお願いしたい」との挨拶があった。

つづいてご来賓よりご挨拶を頂戴いたしました。

まず井出学長より，日頃の同窓の支援に対するお礼と，「明日は，118期生の卒業式です。TDCビルに新しく東京歯科大学のサインが付き後楽園側より見ると存在感がより明確化しました。先月末に施設の引渡しが終了したのでは是非一度見学してほしい。学長を統投する事になったので宜しくお願いしたい。新血協記念ホールの建設も進行しているので，今後一層の寄付を是非ともお願いしたい」とのご挨拶を頂戴しました。

つづいて，衆議院議員白須賀先生より，子宮頸癌ワクチンの無料化についての政治活動報告，今夏の参議院選挙における石井みどり先生と島村先生への協力をお願い等についてご挨拶を頂戴しました。

ここで，丁度到着された金子理事長より今後母校へのさらなる協力要請があり，さらに大久保満男日歯会長，村上恵一日歯専務理事，柳川忠廣日歯常務理事がお見えになり，大久保日歯会長より会務への協力のお礼を含めたご挨拶を頂戴しました。

つづいて出席者の紹介にうつり，その中で，日歯常務理事の富山雅史先生と中島信也先生，日歯理事の森原久樹先生から，それぞれの会務内容に関してご挨拶を頂き

ました。

この後懇談会は，五十嵐 治新潟県歯科医師会会長・日歯代議員の座長のもと進行され，第172回日歯代議員会の総括報告を村山利之日歯代議員より，日歯連盟報告を藤原元幸日歯代議員より頂戴し，つづいて同窓会の会務報告を高橋義一専務理事が行いました。

ここで，高木幹正日歯連盟会長と峰 正博日歯連盟副会長・理事長が来場され，高木日歯連盟会長より会務への協力のお礼と，今夏の参議院議員選挙において職域代表で立候補される石井先生と島村先生への協力要請を含めたご挨拶を頂戴しました。

この後，神奈川県加藤木 健代議員より，この度横浜市歯科医師会の新会長に神奈川県支部連合同窓会会長の杉山紀子先生が推された。また，島村先生の政治活動に対する同窓からの協力のお礼がありました。ここで島村先生より国政に向けたご挨拶を頂戴しました。その後，各都道府県歯科医師会の新会長の選出状況等の紹介がなされ，最後に，梅村長生副会長が閉会の辞を述べました。

会場を「光彩」に移した懇親会では，浮地文夫副会長の開会の辞，矢崎会長挨拶，そして大山萬夫名誉会長・顧問の乾杯の発声で，懇親会は終始和やかな雰囲気の中進行しました。最後に鳴神保雄顧問から総括を頂き，加藤木副会長の閉会の辞で終了しました。

第41回同窓会主催全国ゴルフ大会

会員親睦同窓会ゴルフ大会へのお誘い

会長 矢崎 秀昭

平成25年9月12日（木）に第41回同窓会主催全国ゴルフ大会が総務・厚生部ゴルフ大会委員会、ゴルフ大会実行委員会、そして神奈川県同窓会の皆様のご尽力により、50年以上の歴史を誇る名門の横浜カントリークラブで開催されることとなりました。なお、2012年には日本女子オープンゴルフがこのゴルフ場で開催されております。

東京歯科大学は9月には水道橋に移転することから、母校の新たな飛躍を記念する、大変意義のある大会となります。

ぜひ腕に覚えのあるシングルプレーヤーから、年

に数回楽しみにやられる方、これからゴルフを本格的にやってみようと思っておられる方、シニアから若手や女性の会員の皆様など、より多くの会員のご参加をお願い申し上げます。

お一人でも、また、各支部や、クラス会、各クラブのOB会、医局の会などお誘い合わせて、ご参加くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

委員の方々が、参加された皆様が楽しめる大会になるよう、種々企画をされておられます。

より多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。



キーリートーリ線

第41回 同窓会主催全国ゴルフ大会申込書

所属支部名 _____ 氏 名 _____ 卒業年度 _____

住 所 〒 _____ TEL (_____) _____

生年月日 _____ ハンディキャップ
(プライベートでも可) _____

通信欄

参加費7,000円を添えて申し込みます。

第41回同窓会主催全国ゴルフ大会ご案内

第41回同窓会主催全国ゴルフ大会は、神奈川県横浜カントリークラブ西コースにて開催いたします。

都心近くにありながら緑に囲まれた当コースは、自然の地形を生かした戦略性の高いコースで、時には美しく時には手厳しくプレーヤーを迎えてくれます。

会員各位におかれましては奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

開催日時 平成25年9月12日（木）

会場 横浜カントリークラブ 西コース
〒240-0035

神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町1025

TEL 045-351-1001

FAX 045-352-5620

交通 車利用

東名高速 横浜町田ICから保土ヶ谷バイパス・南本宿ICより1.4Km

第三京浜から横浜新道・今井ICより1 Km

電車利用

JR 横須賀線東戸塚駅下車 約10分

東戸塚駅西口停留所よりクラブバスあり

競技方法 18ホールストロークプレイ

(ダブルペリア方式)

参加費 7,000円(含パーティー費, 賞品代)

その他は個人払いとします。

参加人数 120名限定(先着順)

申込期間 平成25年7月15日まで

申込先 東京歯科大学同窓会ゴルフ大会係宛
〒101-0061

東京都千代田区三崎町2-9-18

TEL 03-5275-1761

申込方法 参加申込書に所定事項記入の上、会費7,000円を添えて、現金書留封筒でお申し込み下さい。

クラス会単位その他のコンペ同時開催による一括申し込みの場合も申し込み時に必ず全員の参加申込書と会費を添えてください。

なお、電話での受付はいたしません。

追記 本大会についての詳細は大会実施要項として、参加申込み手続き終了の方に直接お送りします。その他ご質問お問い合わせ等は下記委員にお問い合わせいたします。

中野正博 TEL 03-3862-6480

◎宿泊 クラブバスが出る東戸塚駅付近にはホテルはございません。

下記ホテルにて宿泊特別割引がございます。

ご予約は各自でお願いします。その際に「東京歯科大学」とお申し出ください。

ニューオータニイン横浜(桜木町駅前)

〒231-8331

神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7

TOC みなとみらい

TEL 045-210-0707



保 険

算定日情報による画面審査

支払基金において、算定日情報による審査が始まり1年が経過しましたが、混乱もなく以前同様のレセプト請求となっておりますでしょうか。

レセプトの電子請求（オンライン又は光ディスク等を用いた請求）を行っている医療機関は、その請求内容が電子化されているため多くの情報が含まれております。その一つとして、レセプトの記載要領に「請求する各点数の算定日ごとに回数を記録して請求するもの」とあるため、いわゆる紙面によるレセプト請求より細かな算定内容が判明する状況になっています。そのため、従来と請求内容が変わらなくても日ごとの算定順序によっては、疑義が生じる事となり、返戻・査定を受けた医療機関もあるのではないのでしょうか。

今回は、皆様に適切なレセプト請求を行って頂くために、その審査状況を解説したいと思います。

例) 紙レセプトにて以下のような請求があるとします。

- カリエスにて来院，初診時に冷水痛を発現していたため，う蝕処置を行ない，再診時で歯冠形成，印象後，実日数3日でインレーを装着したケースを例にします。

傷病名 部位	5 C										診療開始日	25年 6月 3日			
											診療実日数	3日 (日)			
											転帰	治ゆ	死亡	中止	
初診	218	時間外	休日	深夜	乳	乳・時間外	乳・休日	乳・深夜	特	特導	特連	特地	外来環	218	点
再診	42×2	時間外	休日	深夜	乳	乳・時間外	乳・休日	乳・深夜	特				再外来環	84	点
管理	歯管 110	義管			実地指 80	F局	F洗	医管	その他					190	点
X線 検査	全顎 48×1	写	P混検	P部検	基 本 検 査			精 密 検 査	そ の 他					48	点
	パ	EMR	顎運動	平測											
処 置 ・ 手 術	う蝕 18×1	保護処置 30×1		填塞	除去 16×1			知覚過敏	咬調					64	点
	抜	感 根 処		根	根			加 圧 根 充	生切						
麻酔	伝麻	浸麻 30×1	その他	OA2%キシロカインCt 1.8mL 6×1										36	点
歯 冠 修 復 及 び 欠 損 補 綴	補診	維持管理		印象 62×1											
	歯冠形成	生前 金ジ	失 金ジ	(窩 86×1	充形	咬合 16×1								164	点
	活乳	活乳		洞	修形	支台築造	メタル	前小	大	その他	前小	大			
	金属歯冠修復	乳前小銀					TeC	充 填							
摘 要	前小バ	455×1					硬ジ		充 I						
	前小二						ジ	乳	充 II						
	大バ						修理		材 充 III						
	大銀						装着		材 その他						
	大ニ						装着		リテイナー						
14K						材料	16×1		仮 着				471	点	
要	インレー										公費分請求	点	合 計	1275	点
											点数決定	※	点		
											患者負担額 (公費)	円	決 定	※	点
										高額療養費	※	円	一部負担金 額	減額 割(円) 免除・支払猶予	円

紙面による審査においては、請求上全く問題のないレセプトです。

レセプトは請求上、月単位でまとめて行いますが、同じ請求内容であっても、診療内容が診療日によって異なる場合があります。

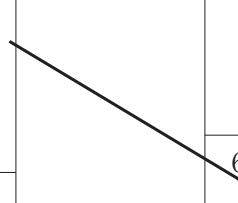
《診療内容（算定日情報）》

ケース A

6/3	初診 デンタル 浸麻(OA 2%キシロカイン Ctl. 8mL) 除去 (インレー) う蝕処置 間接覆罩
6/10	再診 KP (複雑) imp BT
6/17	12%Pd 複インレー 装着

ケース B

6/3	初診 デンタル 除去 (インレー) う蝕処置 間接覆罩
6/10	再診 浸麻(OA 2%キシロカイン Ctl. 8mL) KP (複雑) imp BT
6/17	12%Pd 複インレー 装着



ケース A、ケース B は、共に紙面によるレセプト上では同じ請求になります。

しかし、電子請求されたレセプトにおいては、審査の画面上に参考資料として上記の様な算定日ごとの診療内容が表示されます。

この場合、ケース A においては請求上問題ありませんが、ケース B におきましては、6/10の歯冠形成時に浸麻を行っていることになってしまい、取扱い上疑義が生じてしまいます。

このように紙面によるレセプト請求において判りにくかった診療行為の流れが電子請求されたレセプトの場合、明白となります。減点査定の対象になりますので十分ご注意ください。

主な疑義が生じるケース

- ・ 休診日以外に休日加算の算定
- ・ 1 回目の歯科疾患管理料算定前に機械的歯面清掃処置の算定
- ・ 傷病名に歯周疾患の記載があり、歯周病検査前に歯科疾患管理料の算定
- ・ Hys 処置後に充形または修形の算定
- ・ 根充後、同日に確認のデンタルがない加圧根充加算の算定
- ・ 歯冠形成時に浸麻の算定（上記事例ケース）
- ・ 歯冠形成時にう蝕処置の算定
- ・ 歯冠形成時に間接覆罩の算定
- ・ 歯冠形成前に TeC、リテイナーの算定
- ・ SC 未実施での P 基処の算定
- ・ SC 等歯周基本治療終了と同日に歯周病検査の算定
- ・ SC の1/3顎66点を同日 2 回の算定
- ・ SPT と同日に機械的歯面清掃処置の算定
- ・ 床副子装着と同日に床副子調整の算定
- ・ P 由来の切開と同日に歯周病検査の算定
- ・ 歯周病検査前に口腔内写真検査の算定
- ・ 前回の歯周病検査から 1 ヶ月以内に再度の歯周病検査を（100/100）で算定
- ・ T.コンデ算定後、義歯新製や床適合（裏装）のない義歯管理料の算定
- ・ 新義歯印象後に行う同部位の T.コンデの算定
- ・ 義管算定前に義調の算定

算定日情報を参考とした審査は、いわゆる「保険者サービス」という概念にて支払基金で先行されております。国保連合会も 3 月から都道府県別に順次行う事とされておりますが、現状は地域によって異なります。

しかしながら、支払基金と連合会の審査基準の統一の動きもありますので、今後、十分にご注意してください。

卒研レポート2013

『最初に診ること、ずっと診ること』

～臨床記録の重要性を理解しよう！～

2013年4月14日(日)に、卒後5年以内の先生を対象としたディスカッションセミナー「最初に診ること、ずっと診ること」～臨床記録の重要性を理解しよう！～が、TDCビル13階にて開催されました。



同窓の研修医55名、日大より20名、一般の先生9名、計84名と定員を上回る参加者でした。日大同窓会学術の先生方とは3年程前より連携をとっており、昨年末に行われた若手支援セミナーにも日大より30名程の参加があり、また、日大のセミナーにも同窓の先生方



の参加があったりと密な交流を保っています。

開講式が行われた後、当日1日つきあっていく症例が紹介されました。まず少ない情報のみで得られる患者さんの状態を全員で考えていくアイスブレイキングが行われ、11班に分かれたグループディスカッション後、話し合われた内容の発表、そして、委員の先生3名より、①実際の症例について、②口腔内写真について、③デンタルについての説明があり、更に宮地副会長より、“知っているだけではだめで、実際にやるのが大切”といった追加発言がありました。

昼休みをはさんで午後は、主訴



の部位の治療がなされた後の口腔内全体をどう診ていくかというディスカッションが行われ、午前中と同様に各班でまとめた内容が集合後に発表されました。そして、実際にはどのような治療経過を辿ったのかの症例解説がありました。その後、委員の先生の体験談の発表があり、続いて修了証授与が行われ、今期最初の卒後研修セミナーが閉講となりました。



全体の構成から各先生方の講演の内容までとてもよく考えられていて、臨床経験がある程度ある私にとってもとても役立つセミナー内容でした。

(取材・広報部 小貫飛鳥)



母校だより

第118回 卒業証書授与式



平成25年3月15日(金)午前10時から、千葉校舎講堂に於いて第118回卒業証書授与式が行われた。今回は初の試みとして、卒業式に先立ち大学院の修了式が執り行われ、井上 孝大学院研究科長より今年度修了の38名の大学院生に修了証が授与された。引き続き司会の佐藤 亨学生部長の開式の辞に続き、参列者一同の「君が代」の斉唱で卒業式が開式された。

まず柳澤孝彰副学長から「現在、本学に在籍する学生は820名であり、本日卒業証書を授与される者はその内の131名、大学設置以来の卒業生を合わせると8,606名、専門学校設置以来の卒業生を合わせると14,619名で、高山歯科医学院創立以来の通算卒業生数は14,910名になる」旨の学事報告の後、河田英司教務部長の呼名により卒業生一人一人が起立し、井出吉信学長から卒業証書が授与された。今年も舞台脇には大型スクリーンが設置され、卒業生の表

情が会場に流され、各自の緊張の面持ちから笑顔まで、手に取るように分かるように配慮されていた。続く褒賞の授与では、学長賞、血脇賞、井上 裕賞、精勤賞、卒業論文賞が授与された(受賞者は文末に記載)。

続いて井出学長は告示で、「皆さんの卒業回数である118回は、本学の前身高山歯科医学院の第一期生10名の明治28年卒業から始まっており、120年を超える歴史の中で連綿と引き継がれた回数である。本学において最先端の歯科医学、歯科医療の知識、技術を学び、歯科医療人として必要なコミュニケーション能力を養ってきたが、これからは臨床研修の場で歯科医師としての第一歩がはじまる。一人一人がしっかりと目的意識を持って歯科医療に向かい、医療の現場で磨き上げ、国民に信頼される歯科医師を目指してもらいたい。常に歯科医療は進歩するので、生涯学ぶ姿勢を持ち続けてもらいたい。また、臨床研修修了後

における大学院での研究体制や、各病院での研修制度も本学は大変充実している。昨年11月には本学とも所縁の深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を締結した。今後は教育、研究、臨床において相互に交流を深めて連携し、学術活動を推進してゆく予定である。本年はメインキャンパスを水道橋に移転し、新たなスタートを切ることになる。卒業生は本学同窓として未永く本校の発展を温かく見守っていただきたい。さらに今後生涯教育の場として母校を大いに利用していただきたい。それが後輩への良い励みにつながるものと思う。ノーベル生理医学賞を受賞された山中伸哉教授は記者会見で「家庭での支えがなければ、研究という仕事は続けられなかった。」と家族への感謝の気持ちを述べておられるが、皆さんも卒業にあたってまずご家族への感謝の気持ちを大切にしてほしい」と述べられた。

続いての祝辞で金子 譲理事長



は、「口腔の健康が全身につながるという極めて医学的な観点から、医科が歯科の医療をとりこんで患者の健康を考えるとということが現実に始まっている。これから皆さんはそのような意識で取り組んでいくことになるので、新しい時代を担っていくことになる。本学123年の歴史の中で、明治になって西洋文化を取り入れて近代化をしようとした時に、歯科医学の教育をいち早くとり入れたのが我々の先達であった。その時代、大学はほとんどなく明治40年に専門学校になったが、大学は残念ながら敗戦によって、米国式の教育方法が取り入れられてなったものである。専門学校はもともと研究はいらないうことだったが、そうはいかないとのことで東京歯科の先達がフロントランナーとして活躍した。開拓者という切り開いていく精神が大切であり、皆さんの身近な先輩も歯科医学を引っ張って行っている方々も多い。〈血脇イヅム〉というのがある。結束のために家族主義ということが強調されているが、血脇先生がご自分で語ったものが当時の学生会の会報に載っている。〈私は馬車馬のように遮二無二突進したのである。事の成敗異論のごときは

第二の問題として、自己の義務と責任との命ずるところに最善の縷々を傾注して、邁進してきたのである。そこには利害を打算する余裕は微塵もない。ただ一心不乱である。何でもかんでもやれるだけやっつけたのである。諸君の言う血脇イヅムの本態はこれではなくてはならぬ。と私自身が思う。水道橋精神なるものも、願わくはこれであってほしい」と述べて、自分の人生を豊かにするために3分を使えと野口先生にも送っている」と卒業生にエールを送られた。

続いて矢崎秀昭同窓会長の代理として宮地健夫副会長が登壇され、「本日より本学の同窓会会員となることを、我々同窓はもろ手を挙げて歓迎する。今日の日本は少子高齢社会、震災からの復興、周辺諸国との緊張、さらに長年にわたる社会の構造的な歪みなど、未曾有の国家的な危機に直面している。歯科医業界においても医療保険の財政的問題、一般社会からの指摘、歯科大学間の生き残りをかけた熾烈な競争など厳しい環境である。しかしながら人の寿命がいくら長くなったとしても、人間らしく心身ともに健康な生活ができなくては長寿社会の本質的な意

味はない。人間は口から食べ物を美味しく食べることが健康を維持するうえで最も大切なこととなる。皆さんがこれから生涯の天職として取り組もうとしている歯科医師の仕事は、まさに人々の生きる力と健康な生活を支える素晴らしい仕事である。120年を超える本学の発展の足取りは日本の歯科医学の歴史そのものである。みなさんの先輩は、幾多の困難を乗り越えて常に歯科界をリードし、ついに世界に冠たる歯科医療を築き上げた。本日卒業される皆さんには、本学の歴史と先人の活躍を引き継ぎ、日本を代表し国際的に活躍できる歯科医師となれることを願っている。卒業と同時に皆さんは同窓会の会員となるが、特に5年間は同窓会の新進会員とさせていただく。この間に同窓会として会員ひとりひとりと強い連携を保ち、できるだけ同窓の先生方のお役にたつように多方面にわたる活動をしている。現在、医療技術面でのサポート体制として毎月のように実習付きの卒後研修セミナーを実施、さらに日々の診療にすぐに役立つ若手支援セミナーを開催するなど若手の同窓の支援に力を入れているので、ぜひ協力してほしい」と祝辞を述べられた。

続いて在校生を代表して星野立樹君（5年生）から送辞，卒業生を代表して來田祐実さんから答辞が述べられた後，出席者全員で校歌を斉唱し，厳肅かつ感動的な卒業証書授与式が閉会となった。

（広報委員 古澤成博）

受賞者一覧

学長賞：來田祐実

血脇賞：覚本貴仁，崔大喚，手島麻子，鬼谷 薫

井上裕賞：飯田雄太

精励賞：田端倫子，山田 祥，米山瞬輔，高橋香央里

林 士凱，木下由加，西岡千尋，山本恵史

池田麻乃，覚本貴仁

卒業論文賞：田中らいら，木村基善，宇田川小百合，石田結実香
重藤玲子

平成25年度 母校入学式



去る平成25年4月5日（金），陽春の穏やかな日差しが心地よい午後1時より，千葉校舎講堂において平成25年度東京歯科大学入学式が行われた。佐藤 亨学生部長の司会進行のもと，まず管弦楽部の生演奏の伴奏で国歌「君が代」と校歌の斉唱が晴れやかに行われた後，河田英司教務部長が新入生一人一人の紹介を行った。その後にはまず井出吉信学長から以下のような訓示があった。

「本学の教育の特色は，歯科医師としての知識，技術だけでなく，社会性，国際性を身に付け，人間的に優れた良識豊かな歯科医療人を育成してゆくことにある。本学の確かな教育力は，歯科医師

国家試験での高い合格率に示されており，この2月に実施された第106回国家試験でも，2年連続で全国29歯科大学のトップという輝かしい結果となった。創立以来120年を優に超えた本学は，これまでに培った確かな実績の元，最先端の教育，研究，診療を行い，常に我が国の歯科医学，歯科医療を牽引しながら，新しい知識と技術を学生に教育し最新の歯科医療を提供することで，国民から信頼される歯科医学教育機関として社会的使命を実践していると考えている。皆さんが本日初めて歌う本学の校歌は，1927（昭和2）年に北原白秋氏が作詞，山田耕柞氏が作曲されたもので，それは本学の

前身東京歯科医学専門学校のものである。校歌の4番の歌詞に，〈水道橋畔日は照り渡れり…〉とあるが，本年はその地である水道橋にメインキャンパスを再度移転し，本学の新たなスタートの年，まさに飛躍の年となる。水道橋への移転を機に，他大学，研究機関との共同研究をより積極的に行い，学内における最先端のプロジェクト研究をさらに強化させ，常に最新の歯科医療をとりいれて行きたいと考えている。昨年11月には本学とも所縁の深い慶應義塾大学医学部との間で連携協定を締結した。今後は教育，研究，臨床において相互に交流を深めて連携し，学術活動を推進してゆく予定

である。皆さんにとってこれから始まる6年間は、人生にとって最も華やかな大切な時。水道橋を学びの拠点として、ぜひ充実した学生生活を過ごしていただきたい」。

続いて金子 譲理事長から「東京歯科大学の役割は何か?と考えた時、歯科大学としては教育、研究、診療だが、一般の大学としては、「知識の伝達」と「創造性を養うこと」の2つである。先人の創造の積み重ねで今まで来ているわけであり、その意味では創造がいかに重要か理解できるであろう。みなさんの大学生活は、医療人としての役割を身につける準備期間である。東京歯科大学は今年123年で血脇先生が根付かせたわけであるが、本学の歩んできた道というのは、新しいことをやってきたということと、それを継続させてきたことが大きな特徴である。その中に大事なことがあるので、皆さんは6年間でそれを感じ取っていただくと同時に身に付けていただきたい。つまり新しいこ

とをやることは、前に誰もいないこと、自分で開拓しないと行けないこと、つまり自分に試練、義務、責任を感じていないと続かない。当然苦しいから途中で辞めてしまうことになる。高山先生が血脇先生に引き継いだことと同じように、継続のためには次の人材を見極めることも大事であることもわかってほしい。本学は試験が多いと思うが、試験をやるためだけに大学に来ているのでは意味はない。人との関わりの中で過ごし、その中で競争や他人を思いやる心が養われる。これまでと同じと思うかもしれないが、皆さんはもう中学生や高校生とは違う。これから自己を確立する大事な時期であり、この中でこの大学が作っているいろいろな雰囲気、あるいは教育のための施設を大いに活用して学生生活を送ってもらいたい。人間力が育てられるのが大学生活の価値であるので、勉学以外の面でも頑張っていただきたい。とにかく、始めたことはやめない



で一生懸命やる。やっていくうちに面白くなり、良い友達が出来ると。それは一生の宝である。皆さんは生涯勉強しなきゃいけない職業になろうと思って来ているわけだが、学生の中に勉強が嫌いになっては困るので、それには物事の理屈を理解するために時間を使うことが大切である」との祝辞があった。

続いて新入生を代表して済川志麻さんが宣誓を行った後、学長より徽章が授与され、再び校歌を斉唱して、緊張感のある華やかな入学式が閉じられた。

(広報委員 古澤成博)

平成25年度 新入生名簿

浅野 一磨	岩澤 弘樹	籠浦 弘城	栗原 智尋	齋藤 大幹
天野 沙紀	岩渕 有華	粕谷 知央	黒河 賢人	坂井 勇樹
新谷 仁菜	宇津 暁久	片野 雄太郎	黒澤 佑磨	坂本 有里紗
安藤 雄太郎	海邊 寛之	加藤 雄人	桑原 正浩	佐川 美鈴
李 瑞胤	江越 美空	兼子 真名美	小池 希美	篠島 理輝
池田 千晃	大澤 雄一郎	加納 佳与子	小泉 博史	佐藤 栄輝
石口 恭子	太田 健太郎	樺澤 由佳李	小枝 真優香	佐藤 緑
伊丹 尚子	大野 貴弘	鎌田 大飛	古賀 美祐紀	塩谷 麻衣
稲田 宇紘	岡野 文佳	亀本 滉樹	後藤 千勝	嶋田 優希
井瀬 智之	小鹿山 知実	北島 彩花	小林 千鶴	清水 康太郎
井比 陽佳	小川内 香帆	九鬼 ゆり	小松 千晃	清水 勇太郎
岩崎 亮	小野 魁星	工藤 将毅	小松 リナ	菅原 礼

杉浦 慧	立花 涉	橋本 菜央	溝端 彩希	柳田 陵介
杉原 真依	趙 顯哲	濱本 優太	三谷 佳歩	山田 玲菜
鈴木 えりな	塚田 裕樹	林 敦	南 亜莉沙	山本 圭
鈴木 世那	徳山 彰秀	林 咲穂	峰村 勇生	山本 大聖
鈴木 大輝	富山 葵弓	日浅 香保	三宅 麗	山本 楓華
鈴木 花	中里 伊吹	久永 理央	宮崎 創太	山本 吉紀
鈴木 玲也	中島 克真	左 原美	宮田 大志	横矢 幸平
済川 志麻	中島 智輝	藤井 紗綾	本里 茉莉香	吉川 智菜津
大黒 沙友莉	中島 龍	藤川 秋	森 瑞貴	吉野 輝
高橋 由子	中曾根 莉子	二村 好一	森井 広一	力武 春菜
田上 聖章	中野 夢実	本保 裕太郎	森野 響子	渡辺 元次
武内 聡佳	西 美咲	前野 孝仁	守屋 聡亮	綿屋 早織
竹内 遼	西中 梨菜	松本 みなみ	柳生 憲太朗	
立澤 孝太郎	西村 光正	三木 慎太郎	安原 才門	

平成25年度 第2学年編入（9名）

岡林 宏樹	慶田 喜純	下山 圭太	中村 眞一郎	細谷 正利
久保 真里亜	佐藤 恵美	鈴木 真理子	西村 央子	

平成25年度 東京歯科大学 入試ガイダンス日程

	開催日時（予定）	場 所	内 容
1	7月7日（日） 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 推薦入試問題の解説，大学紹介，個人別相談(希望者)
2	7月27日（土） 14時～16時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 推薦入試問題の解説，大学紹介，個人別相談(希望者)
3	8月24日（土） 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 推薦入試問題の解説，大学紹介，個人別相談(希望者)
4	9月29日（日） 13時～15時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 推薦入試問題の解説，大学紹介，個人別相談(希望者)
5	12月14日（土） 14時～16時	東京歯科大学 本館校舎13階 (水道橋キャンパス)	模擬授業，入試概要説明，入試科目ポイントの説明， 大学紹介，個人別相談(希望者)

※ 内容，開催時間等，変更になることがありますので，事前にお問い合わせください。

問合せ先：東京歯科大学 教務課（千葉校舎） TEL：043-270-3733

URL：http://www.tdc.ac.jp

支部のうごき

掲示板

*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成25年 7月5日(金) 午後7時30分～	歯科治療における救急対応について 一戸達也教授 (東歯大歯科麻酔学講座)	浅草歯科医師会事務所 台東区浅草1-4-7 勉強堂ビル4階 TEL 03-3841-5154	浅草支部 連絡先 担当・田 昌文 TEL・FAX 03-3874-4565	支部会員 同窓会員 歯科関係 (会費無料)
学術講演会 平成25年 7月6日(土) 午後3時～	経過から学んだ欠損歯列の読み方 宮地建夫先生 (東京都開業)	千明仁泉亭 渋川市伊香保町45 TEL 0279-72-3355	群馬県支部 連絡先 担当・原 茂 TEL 0274-22-0079	支部会員 同窓会員
学術講演会 平成25年 7月6日(土) 午後2時～ 3時30分	2030年の歯科治療 ～再生医療が歯科治療を代える日～ 井上 孝教授 (東歯大臨床検査病理学講座)	越谷サンシティホール 越谷市南越谷1-2876-1 勉強堂ビル4階 TEL 048-985-1111	埼玉県支部 連絡先 学術担当・岡村美恵子 TEL 048-641-3540	支部会員 同窓会員
学術講演会 平成25年 7月7日(日) 午後2時～	「Endoの兵法 ～合理的な根管での戦い方を考える～」 加藤広之講師 (東歯大歯科保存学講座)	愛知県歯科医師会館 名古屋市中区丸の内 3-5-18 TEL 052-962-8020	愛知県支部 連絡先 担当・久野昌士 TEL 0569-43-1124	歯科関係 (歯科医師)

青 森 県 支 部

平成25年度定時総会，学術講演会

平成25年3月2日(土)午後3時より、ホテル青森に於いて、定時総会並びに学術講演会が開催されました。

小林敏彦常任理事の司会により、本田富彦副支部長の開会の辞で総会が始まりました。松山陽一支部長の挨拶に続いて、ご来賓としてお招きした本部同窓会会長の矢崎秀昭先生、青森県歯科医師会会長代理の長内幸一先生、大学から微生物学講座主任教授の石原和幸先生よりそれぞれ、ご挨拶を頂きました。矢崎会長からは、昨年4月より、新入生が水道橋「さ

○平成25年度同窓会青森県支部 第2回理事会(組織会)

4月6日(土)、本田支部長から役員委嘱状が交付されました。新支部役員は以下の通りです。

支 部 長	本田 富彦	常任理事	石田 大也
副支部長	船越 良一		(総務・会計)
	畑中 政利		本田宗一郎
常任理事	長内 幸一		(総務・広報)
	(総務・学術)		黒田 雅仁(総務)
	小林 敏彦		久米田俊次(社保)
	(総務・庶務)		梅原 一浩(学術)
	熊谷 恒		古川由美子(総務)
	(会計・社保)		清藤 浩也(社保)
	工藤 浩幸		松山 貴紀(総務)
	(総務・学術)	監 事	宮川 克孝
	住吉 千明		福士 淳一
	(庶務・広報)	顧 問	高畑 研佑
			松山 陽一

いかち坂校舎」にて、勉学に励んでいるなどの大学移転状況、同窓会の組織改革、寄付金について等の詳しいお話がありました。

庶務報告、昨年仙台開催の第49回東北地域支部連合会の諸報告、同窓会評議員会の報告の後、昨年11月25日に初めて開催された東北地域支部連合会の支部長、幹事長会について、松山支部長が報告されました。

議事に入り、第1号議案から4号議案まで、すべて承認可決致し

ました。今年度は役員改選ということで、松山陽一先生が任期満了で勇退され、新支部長に本田富彦先生が選出された他、監事は宮川克孝先生が留任、福士淳一先生が新監事に選ばれました。また、その他項目として、未入会会員の状況把握に関する提案がありました。

学術講演会は微生物学の石原和幸教授が「口腔バイオフィームと健康」と題して講演されました。う蝕や歯周病はプラークや歯

肉溝内の原因菌と体質と生活習慣ファクターが密接に関わる感染症であり、バイオフィームが大きく関与しているという現在得られているエビデンスと全身疾患との関わりについて、非常に分かり易く教えて頂きました。

講演終了後、記念写真の撮影をし、懇親会へと移りました。和やかで、楽しいひとときを過ごし、最後に恒例の校歌斉唱で、お開きとなりました。（畑中政利 記）



群馬県支部

平成24年度定時総会

平成24年度群馬県同窓会定時総会が、平成25年3月9日(土)、午後4時より前橋市のアニバサリコート ラシーネに於いて開催されました。来賓として、同窓会本部専務理事の高橋義一先生と同窓で群馬県歯科医師会会長の村山利之先生をお迎えしました。真下泰彦副会長の開会の辞に続き、平成24年7月の定時総会以降にご逝去された田部井三雄先生、石岡秀雄先生、武安正嘉先生に黙祷を捧げました。次に、清見能久同窓会会長より挨拶が行われ、総会において慎重な審議を要請されました。次に、顧問の冨澤憲男先生より挨拶が行われ、2日前にご逝去された武安正嘉先生を偲んで、想い出についてお話されました。また、1人でも多くの先生に総会に

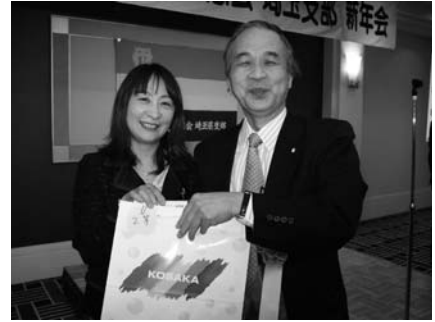
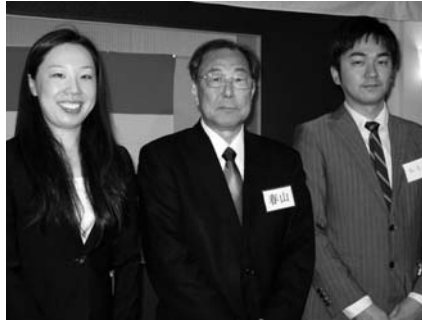
出席していただきたいとお話されました。次に、来賓の同窓会本部専務理事の高橋義一先生よりご挨拶が行われ、喫緊の課題として若手の同窓生の支部未加入を挙げられ、同窓会本部現況として、評議員の問題、同窓会の強化、新しい会員種別、同窓会創立120周年などについてお話いただき、大学移転に際しての母校支援の寄付金について、更なるお願いがありました。次に、群馬県歯科医師会会長の村山利之先生により挨拶が行われ、群馬県歯科医師会の会務の執行に対する同窓会員の支援と協力について感謝の言葉を述べられました。また、昨年、国家試験の合格率がトップになったことを始めとし、いろいろなことで母校を誇りに思うとお話されました。次に、庶務報告が行われました。続

いて、総会議長に山口保男先生が選出され、議事として、平成25年度事業計画案の承認、平成25年度一般会計および福祉共済部会計予算案の承認を求める議事が提出され、可決承認されました。次に、次期役員人事について承認を求める議事が提出され、役員会より次期会長に引田正俊先生(現副会長)が推薦され、可決承認されました。そして、引田正俊副会長より閉会の辞で総会は無事終了しました。

引き続き、記念撮影を行い、川越文雄先生の乾杯のもとに懇親会を開宴しました。終始なごやかな雰囲気の中でお互いの親睦を深め合い、最後に次期会長に選出された引田正俊先生より会長就任の抱負をお話いただきお開きとなりました。(三丸 潔 記)



埼玉県支部



新年会開催

平成25年2月24日(日)、浦和ワシントンホテルにおいて、大学本部より井出吉信学長、田崎雅和教授、同窓会本部から佐瀬俊之副会長、埼玉県歯科医師会からは島田篤会長をお迎えして、埼玉県支部新年会が開催されました。

最初に主催者を代表して春山良夫支部長より挨拶がなされました。続いて、佐瀬俊之先生には最近の同窓会の動向を、特に若い未入会者の対策をご説明いただきま

した。埼玉県出身である井出吉信学長からは大学の水道橋移転の進捗状況、入試、国家試験の状況についてユーモアたっぷりにご説明いただき、会場は爆笑でした。また、島田篤会長からは埼玉県歯科医師会の活動や未入会対策についてご説明いただきました。

祝宴に移り、前支部長成田賢二先生の乾杯で開宴となりました。平成20年卒の野本有香先生、松木慎太郎先生が新入会員として紹介され、ご挨拶いただきました。美

味いなお酒とすばらしい料理で楽しく歓談した後、毎年恒例のビンゴゲーム大会に変わり、今回も大井誠一幹事長自らプログラミングした抽選ソフトによる大抽選会を行いました。皆さん、豪華なお土産を目論見、大いに盛り上がりました。さらにお酒も進み、年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、校歌斉唱、記念撮影の後、名残惜しくもお開きとなりました。(山崎真司 記)



山梨県支部

定時総会ならびに学術講演会

平成24年12月1日(土)午後2時より、甲府の古名屋ホテルにて、平成24年度定時総会、学術講演会、懇親会が開催されました。

定時総会は、金山昇専務理事の司会のもと、小林正仁副支部長の開会の辞で始まり、逝去された雨宮彦一先生、勝俣體明先生、早川武則先生に黙祷を捧げました。続いて三木正夫支部長より、山梨県における近況報告と、毎月14日に開催している親睦会、通称『14日会(とうしかい)』で、定期的に身近な講師を募って学術講演会を開催することで充実し、進化していると話しました。次に来賓として、同窓会本部より宮地建夫副会長が最近の同窓会の動向や、学生と同窓会の関わりの重要性、血脇記念ホール建設における寄付の意義など、とても分かりやすく説明していただきました。本大学

より高野伸夫千葉病院長が、大学移転の進行状況と、今年も順調に高い国家試験合格率達成と、さらに発展した教育の現状報告がなされ、昨今の入学金引き下げ競争に対して、東京歯科大学という確固たるブランドを強化して立ち向かっていくと熱く話されました。同窓として誇りに思うのと同時に背筋がピンと伸びる思いがしました。続いて、村松久中先生(叙勲旭日双光章)、早乙女通先生(文部科学大臣表彰)のお祝い、その後、議事は滞りなく進行し全認定議案も満場一致で可決・承認されました。

学術講演は、米国口腔顔面痛学会認定医、静岡市立清水病院口腔外科の井川雅子先生より「非歯原性歯痛～歯には異常がないのに、なぜ“歯痛”を訴えるのか?～」と題して講演をいただきました。井川先生は山梨県支部会員である

阿久津葉子先生の実姉ということで、山梨に所縁のある先生ですので、待ちに待った講演でした。痛みを主訴に歯科医院に来院する患者さんの中に、身体的な異常が見当たらずやり過ごしてしまうことや、必要のない処置をしてしまうケースをわかりやすく話してくれました。実際、講演を聞いた後、群発頭痛で悩んでいる友人であったり、のどと耳の痛みを訴える患者さんが来院したりと、決して希なケースではないと実感しました。後悔のない患者さんとのかわりをする上でも、今後、さらに研修に励み、熟知する必要性を改めて痛感しました。

その後、懇親会に移り、垣根を越えた交流を楽しむことが出来ました。充実した時間を演出するのに、甲州ワインが一役も二役もかっていたのは言うまでもありません。(阿久津司郎 記)



渋谷支部

平成25年3月19日(火)渋谷支部の第77回総会が原宿「南国酒家迎賓館」において開催されました。総会は杉田 健副支部長(昭和52年卒)の司会のもと、山崎秀雄議長(昭和47年卒)の進行により各担当役員から平成24年度の会務報告がなされた後、議事に移り質疑応答を経て各議案は可決されました。

総会終了後は部屋を変え懇親会へと移り、青木栄夫支部長(昭和41年卒)の挨拶に続き、酒井雄學先生(昭和29年卒)による乾杯の発声で開宴いたしました。

なお、今回は我が渋谷支部の先輩である成富延治先生(昭和22年卒)、坂井栄隆先生(昭和23年卒)、平野 博先生(昭和23年卒)の米寿のお祝いも行われました。お祝いの記念品と黄金色のちゃんちゃんこと帽子が贈呈され、その後



成富先生、平野先生からお言葉をいただきました。両先生が学生時代、歯科医師としてスタートを切られた頃は、まさに戦中、戦後の激動期であり、平和な現在では考えられないようなエピソードを伺えた事は後輩たちにとって大変有意義でありました。

その後は和やかに食事、歓談を挟んで、渋谷区歯科医師会会長の坂本真理子先生(昭和49年卒)をはじめ TDC 渋谷支部の会員である都歯代議員(関川)、同窓会本部理事(佐々木)、東京地域支部連合会理事(番田)から日頃の活

動状況の報告がありました。

昨今、同窓会の多くの支部では会員数の減少や若手会員の支部未加入という問題に直面していますが、幸いにも我が渋谷支部は幅広い世代に多数の会員(71名)を擁し、学術講演会、保険講習会、親睦旅行等の活動を行うと同時に前述の様に各方面にも多くの人材を輩出しております。今後もこの良き伝統を会員一同で引き継いでいこうという決意を新たにしたい一夜でした。最後は荒瀧友彦会員(平成5年卒)の閉会の挨拶でお開きとなりました。(関川嘉昭 記)



愛知県支部

平成24年度総会

平成24年12月2日(日)名鉄ニューグランドホテルにて平成24年度東京歯科大学愛知県同窓会総会が開催され、総会、記念講演、懇親会と盛大に行われました。

総会では来賓として大学法人主事であり水道橋病院病院長である一戸達也先生、および本部より同窓会副会長、宮地建夫先生をお迎えしました。成瀬 健会長の挨拶では、本部の方針でもある若手の会を盛り上げ、ますますの活気ある会の発展のためとして、愛知県では若手勉強会を開催したという大変有意義な事業の報告がありました。また、次年度は学術、医療問題などを柱とし、東京歯科大学同窓会として歯科界をリードしながら歯科医療の王道を歩んでゆきたい、と述べられました。続いて、大学よりの説明にて、一戸先

生より変化しつつある大学病院の現状として、大学移転、水道橋病院の現在の様子、さいかち坂校舎竣工、血脇記念ホールについての説明がありました。また、第105回歯科医師国家試験の結果、合格率1位との報告に同窓は皆とても誇らしく、嬉しく感じたようでした。本部同窓会からは宮地先生より、大学と同窓会の現状についてお話しされました。同窓会が団結するためのシンボルとして、血脇守之助先生をたたえる記念ホールを同窓の力で支えるんだという意味も込め、血脇先生イコール同窓会という表現でご寄付をより多くの同窓会会員にお願いされました。また、若手会員、女性会員との連携を強化して、若手ネットワークを立ち上げ充実させていくという方針を述べられました。

引き続き総会は、議長選出、収



支現計報告や決算報告各部報告がなされ、議事、協議と、滞りなくすすめられ総会を終えました。

記念講演会は、「相続よもやま話」という演題にて講師に税理士・米国税理士の資格をお持ちになれる加藤久豊先生に講師にいらしていただき、歴史ある東京歯科大学において関心のある医院の継承など相続に関する内容を、鋭い視点でお話しされ、大変ためになりとても勉強になりました。

最後に会員皆がとても楽しみにされている懇親会が同会場にて行



われ、ご来賓として、愛知県歯科医師会副会長の花井信浩先生にいらしていただきました。挨拶として、とても東京歯科に縁のある花井先生であることから、熱のこもった過分なご挨拶をいただき、和気あいあいとした会が催されました。その後も飲み足らず、二次会にいかれる方がたくさんおられたようで、楽しい時間はあっという間に過ぎさりました。最後は、恒例の校歌斉唱を小関理事の指揮の下、熱唱にて終わりを迎え、歴史ある東京歯科大学だからこそ、時代を超えたご縁でつながり、楽しい1日を過ごすことができました。（井上敬介 記）

平成25年度医療問題講演会・若手勉強会（共催）

平成25年4月21日（日）アパホテル名古屋錦にて、新緑であふれる名古屋の町の中、少し肌寒さは残る日曜日の午後、平成25年度東京歯科大学愛知県同窓会医療問題講演会・若手勉強会が共催され、その後の懇親会まで盛大に行われました。成瀬 健会長の挨拶では、

本部の方針でもある若手の会を盛り上げるため、前回の若手勉強会が大変有意義であったことを踏まえ、今後も若手の先生方に同窓会を活気あるものにして戴きたいとお話しされ、さらに今回は医療問題講演会として、昭和49年卒で、本部同窓会副会長の梅村長生先生よりお話を戴くが、その豊富な情報と経験から、大変に有意義な講演になるであろうと挨拶されました。

次に、若手で活躍する3名の先生により、ご自分の専門を踏まえた発表が行われました。トップバッターとして平成2年卒業、豊川の白岩克規先生から、「難しいエンド」と題し、東京歯科大学での伝統ある治療法から最新の情報にわたるお話をして戴きました。次に平成7年卒、半田の静間祐一郎先生より、「一般開業医が行う小児の予防矯正」と題し、一般ホームドクターとして地域の子供たちに必要とされる矯正治療についてこれまでの経験をもとにお話しされました。最後に平成13年卒、中村区で開業している酒井 聡先生



による「顎関節を考慮した矯正治療」と題し、顎関節を考慮した専門性を持った矯正治療の内容で大変勉強となりました。どの先生も大学卒業後、地元愛知にてこれまで日々勉学に取り組んでこられた姿が大いに伺われました。

医療問題講演会では、梅村長生先生より「社会保障・税の一体改革と診療報酬改定」という演題のお話を戴きましたが、医科と歯科との違いを例に、医療とは科学であり、医科に比べ診断における病名が歯科医療には少ないのではないかと疑問からはじまり、社会保障・税の一体改革がなぜ診療報酬改定と関係があるかということについてまで、大変に興味深い内容でわかりやすく説明があり、勉強になりました。

最後に毎回会員皆がとても楽しみにされている懇親会が辻川副会長の挨拶で始まり、山田幹事の乾杯の音頭で和気あいあいとした会が催されました。その中で、今回入会された平成19年卒業夫馬吉啓先生から挨拶がありました。夫馬先生は東京歯科大学を卒業後、東京女子医大にてさらに専門性を深め勉強された先生で今後の若手を中心とした愛知県同窓会から期待されております。（井上敬介 記）



滋賀県支部

平成22年度滋賀県支部総会および 学術講演会開催

東京歯科大学同窓会滋賀県支部総会が、さる平成25年2月3日、「琵琶湖ホテル」にて開催された。当日は冬晴れの天気であり、総勢22名の参加があった。最初に校歌が斉唱され物故会員に黙祷がささげられた。尾松素樹理事が司会を担当、立木 健副支部長の開会の辞に続いて北村眞也支部長が挨拶を述べられた。その後議事に入り、平成24年度の事業報告および会計報告がなされ、引き続き平成25年度の事業計画の協議を行い承認された。また、任期満了に伴う北村支部長の退任挨拶と、次期支部長として藤居正博副支部長を推挙する報告があり、満場一致で承

認された。引き続き、学術講演会として東京歯科大学衛生学講座主任教授の松久保 隆先生に「口腔衛生学の目指すところ～むし歯予防から口腔ケアまで～」と題した特別講演を行っていただいた。まず2011年に制定された「歯科口腔保健の推進に関する法律」について詳しい説明があり、昨今の子供のう歯の減少とその要因についてお話いただいた。また高齢者の残存歯数の著しい増加に伴う今後の問題点、課題について話された。いずれも予防的な検知から積極的に歯科医院に通う必要性があり、そのための啓発活動や広報活動を積極的に進めるように提言され、講演を締めくくられた。講演のなかでパーセントイル曲線を使った

患者説明法やフッ化物応用法、初期カリエスに対するグラスアイオノマー活用法など明日からの臨床にも有用な情報を数多くご提供いただき、非常に参考になる講演であった。休憩を挟んだ後、懇親会に移った。藤居正太郎先生の乾杯の発声で宴が始まり、和やかな時とともに同窓の親睦を深めた。様々な思い出話に老いは当時を懐かしみ、若きは当時に思いを馳せた。非常に興味深いお話ばかりで東京歯科大学の伝統の重さを感じ入った。東京歯科大学のよき伝統である、年齢を超えた結束力の強さはまだまだ健在であると実感した一日であった。

(戸崎秀樹・住井浩剛 記)



写真が同窓会ホームページ《<http://www.tdc-alumni.jp>》に掲載されています。

岡山県支部

平成25年度支部総会および講演会 開催される

平成25年度の支部総会は、来賓に気仙沼市開業の鈴木一雄先生ならびに母校法歯学教室の花岡洋一准教授を迎え、2月3日に岡山プラザホテルにて開催された。

総会は佐藤幹事長の司会のもと10時より開始した。中西副支部長の開会の辞に続き、倉田支部長の挨拶があり、議長に松井一成先生を選出した。

先ず倉田支部長による本部総会ならびに評議員会報告では、会員の高齢化と加えて若手の組織離れが危惧されており、それに伴い評議員数削減・準会員制度・若手ネットワーク事業の推進などの動きがある旨報告がなされた。また、井出学長と懇談の機会を設け、大学の現状と今後の方向性について直に伺い、共感を得たとの報告もなさ

れた。

また原 武仁先生より本部同窓会監事として、本部の運営・改革状況、現在の大学の状況や大学の移転ならびに国政選挙に関する報告があった。

その後担当幹事から会務報告・各部報告・資産報告等がなされた。続いて議事に移り24年度決算、25年度予算案共に了承された。

続いて宮城県気仙沼市開業の鈴木一雄先生（昭和48年卒業）の「東日本大震災に学ぶ」と題しての講演会が行われた。先生は大震災当日診療中に凄まじい地震に襲われ、患者とスタッフの身の安全を確保した後、目の前に広がる気仙沼湾に押し寄せる壮絶な津波による被害を克明にビデオとカメラの映像に残している。それらを供覧しながら津波の被害を最小限にとどめるには、海からの距離でな

く、その場所の標高(海拔)によって決まるので、自分の診療室・自宅の標高を常に意識して日頃から対処しておく必要性を強調された。

また今回大被害を受けた宮城県と全国でも災害が最も少ないと言われる岡山県の地震保険の料率が同じであることなど、びっくりする様な話も伺った。

自然の大規模災害では、なす術がないと思われがちだが、最悪の事態を具体的に想定し事前の準備をしておくことが、被害を最小にとどめ身の安全を守る最善の策であることを改めて教えられたご講演であった。

この講演をもって支部総会は終了し、全員での記念撮影の後部屋を変え講師を交え懇親会を行い、和気あいあいのうちお開きとなった。
(渡辺 治 記)



クラス会だより

三 春 会

昭和60年卒



平成25年3月3日(日)ひな祭りの日、ホテルニューオータニ東京にて、三春会が開催されました。今回の開催は、同級生の島村 大君が今夏の参議院選挙に出馬することになった応援と、昨年末に副担任であった山根源之先生が中心となって「NPO 法人口腔がん早期発見全国ネットワークシステム」を立ち上げられた報告を兼ね、例会とは異なったイレギュラーな開催でした。

中川路君の司会のもと、久しぶりに野間弘康先生の力強いご挨拶と、変わらずお元気で楽しい根岸先生のお話と乾杯に続き、あまり

お酒がまわらないうちにということで、山根先生より、口腔がんの早期発見・治療のための検診システムの確立やネットワークづくり、患者さんへのサポートなどの活動を行う「口腔がん早期発見システム全国ネットワーク」のお話をいただきました。

引き続き、島村 大君から、ど

うして国政にチャレンジすることになったのか???という同級生からの素朴な疑問に答えるように、「歯科界の未来を明るく元気にするために、医療現場の声を国政に届けたい」という心意気を聞き、同級生で島村君を応援しよう!という相庭君の声掛けや、同窓会渉外部の委員である宮吉君からは支



援のお願いがありました。

それにしても、学生時代、真っ黒に日焼けしてT-シャツに短パン姿だった島村君が、緊張した面持ちで国会に臨む日が来ることを、誰が想像していたことでしょうか…。

日ごろ、〇〇先生と呼ばれている面々が〇〇君、〇〇さん、〇〇ちゃん、と呼び合い、美味しいお料理もそこそこに、近況報告や昔話に花が咲き、2次会がお開きになったのは、最終電車も終わった

ころでした。

今回は、プロカメラマン顔負けの皆川君が沢山の写真を撮影してくれました。撮影してくれた集合写真や色々な写真を同窓会HP：クラス会のページに掲載していますので、是非ご覧ください。

ひな祭りの日曜日の午後、年度末のお忙しい時期にも関わらず、多くの同級生に参加していただき、また、急遽、お手伝いをお願いした皆さん…ありがとうございました。

今年の夏は、皆で万歳三唱が出来ることを同級生一同、心より期待しています。(佐々木葉子 記)



百 樹 会

平成2年卒

平成25年1月26日(土)水道橋にて第6回の百樹会総会および懇親会が開催された。

総会は17時30分より水道橋校舎13階ルームCにて行われ、クラス会の運営や今後の活動に必要な会費の徴収、大学創立120年記念事業の一環である水道橋移転への支援等の案件について討議した。過去の総会ではあまり意見も出ることなく、スムーズに議事が進行していたが、今回は活発な意見の交換がなされた。

総会后に、第3、4学年次の学

年主任であった井出吉信学長に「大学の近況」を講演して頂き、水道橋移転の現状や、卒後23年経過して学生気質の違いや大学内の変化について熱心に聞き入った。その後改装中の水道橋病院の見学を行い、懇親会場の東京ドームホテル42F「シリウス」に向かった。

懇親会には、来賓として井出学長始め、第5、6年次の学年副主任であった山口秀晴・前歯科矯正学講座教授、現千葉病院長の高野伸夫・口腔外科学教授、第3、4

学年次の学年副主任であった現教務部長の河田英司・歯科理工学教授、第1学年C組のクラス主任であった小島 晃元化学教授、第1学年A組のクラス副主任であった中島 功・現昭和大学歯学部講師をお迎えして会員60余名の出席のもと、福田謙一君の司会により19時20分に開会となった。

井出先生、山口先生のご挨拶に続き、高野先生による乾杯のご発声後は、3年ぶりのクラス会ともあり、久々の再開や旧交を温め合いながら和やかに進行していっ

た。

会の途中で、大学への支援を30万円の寄付とする旨総会で決定したことから、早速その目録を井出学長に贈呈した。続いて2年前に学長に就任された井出先生に、クラス会一同よりお祝いの記念品と花束の贈呈を行い、また、昨年8月に解剖学講座・准教授に昇任した坂 英樹にクラス会より記念品が贈呈された。

その後河田先生より大学内での学生の様子や、小島先生の変わらぬ？辛口のコメント、中島先生の学生時代とは全く雰囲気の違いの違ふ穏やかな？ご挨拶を頂き、歓談の花も満開の中、あっという間に予定の2時間が経過し、出席者全員で



寄付目録贈呈



記念品贈呈

記念撮影を行いお開きとなった。

今回の出席者（敬称略）。

安部、飯田、森(石川)、市之川、伊藤幸、宇都宮、小川、奥山雅、柏尾、加納、神原夫妻、喜田、國松、後藤、小山、坂、酒向、佐塚、小林(佐藤真)、塩崎、嶋田、下尾、安蒜(下平)、白岩、住吉夫妻、野間(杉山太)、杉山日、菅沼、鈴木

裕、清藤、宝田、多胡、三宅(中村)、糠信、原、祓川、林智、平岡、平嶺、福田謙、福田直、福本、文野、松坂、松崎、松澤稔、松田、溝口、宮下、村山、國府田(本山)、森島、山川、山際、山本高、吉井、吉野、若尾、渡辺幸、(準会員：上村、岸田、小林修)。

(坂 英樹 記)



クラス会開催日程

八 紫 会 (昭和35年卒)	と き	平成25年10月12日(土)～14日(月・祭)
	と ころ	浄土ヶ浜パークホテル・ホテル志戸平
12 期 会 (昭和39年卒)	と き	平成25年10月18日(金)～20日(日)
	と ころ	東京 エドモンドホテル 飯田橋ほか
踏 志 会 (昭和41年卒)	と き	平成25年10月19日(土)～20日(日)
	と ころ	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル
シ チ ヤ 会 (昭和48年卒)	と き	平成25年 9月 7日(土)
	と ころ	東京 帝国ホテル

庶務日誌

- 3月
- 1) 理事会
- 3月23日(土) 第2回理事会
- 2) 委員会
- 3月1日(金) 新進会員のつどい運営委員会
- 4日(月) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 5日(火) 広報部広報委員会
- 5日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 11日(月) 会員管理システム検討委員会
- 11日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 12日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 15日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 18日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 21日(木) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 22日(金) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
- 26日(火) 会務検討特別委員会
- 26日(火) 事業推進部学術委員会(企画会議)
- 28日(木) 事業推進部保険委員会
- 28日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 3) 出張
- 3月2日(土) 青森県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・石原和幸教授(母校)
- 8日(金) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業証書授与式 佐瀬副会長出席
- 9日(土) 群馬県支部総会 高橋専務理事出席
- 13日(水) 杉並支部学術講演会 講師・齋藤淳教授(母校)
- 15日(金) 第118回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式 宮地副会長出席
- 15日(金) 大学院修了式 宮地副会長出席
- 15日(金) 第118期卒業生主催謝恩会 矢崎会長出席
- 23日(土) 日歯連盟「石井みどり中央後援会」顧問会議 梅村副会長, 佐々木常任理事出席
- 30日(土) 北海道地域支部連合会支部長会・臨時総会 高橋専務理事, 佐藤理事出席
- 4) 事業
- 3月14日(木) 新入会員オリエンテーション
- 14日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会
- 18日(月) 水道橋病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 25日(月) 千葉病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 26日(火) 市川総合病院臨床研修歯科医修了者オリエンテーション
- 4月
- 1) 理事会
- 4月17日(水) 第2回常任理事会
- 2) 委員会
- 4月1日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 3日(水) 事業推進部(企画会議)
- 4日(木) 新進会員のつどい運営委員会
- 10日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 10日(水) 広報部広報委員会
- 11日(木) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 11日(木) 総務関係打合せ
- 12日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 13日(土) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 15日(月) 事業推進部学術委員会(事業検討委員会)
- 16日(火) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
- 16日(火) 新進会員のつどい講師打合せ
- 17日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 18日(木) 総務・厚生部厚生委員会
- 19日(金) 同窓会・会務運営協議会
- 19日(金) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 22日(月) 会員管理システム検討委員会
- 22日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 23日(火) 事業推進部学術委員会(企画会議)

- 24日(水) 新進会員のつどい運営委員会
- 25日(木) 会務検討特別委員会
- 25日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会
- 26日(金) 事業推進部保健委員会
- 26日(金) 渉外部渉外委員会

3) 出張

- 4月4日(木) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式 矢崎会長出席
- 5日(金) 東京歯科大学入学式 矢崎会長出席
- 8日(月) 東京歯科大学大学院入学式 矢崎会長出席
- 10日(水) 東京地域支部連合会支部長会 矢崎会長出席
- 13日(土) 山形県支部総会 梅村副会長出席
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
- 13日(土) 宮城県支部総会 浮地副会長出席
学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)
- 13日(土) 横浜西部支部総会 加藤木副会長出席
- 14日(日) 全国歯科大学同窓・校友会学術担当者連絡会準備会 牧野委員出席
- 18日(木) 全国歯科大学同窓会・校友会主催「石井みどり支援総決起大会」幹事校会議 佐々木常任理事出席
- 25日(木) 東京歯科大学水道橋キャンパス竣工関連行事事前打合せ会 矢崎会長, 宮地副会長, 高橋専務理事出席
- 27日(土) 大分県支部総会 宮地副会長出席
学術講演会 講師・宮地建夫先生(東京都開業)

4) 事業

- 4月14日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.1 ディスカッションセミナー「最初に診ること, ずっと診ること」～臨床記録の重要性を理解しよう!～

5月

1) 理事会

- 5月25日(土) 第3回理事会

2) 委員会

- 5月1日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 7日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 8日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
- 10日(金) 新進会員のつどい運営委員会
- 10日(金) 広報部広報委員会
- 10日(金) 事業推進部学術委員会(研究部)
- 13日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
- 14日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 14日(火) 総務関係打合せ
- 15日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 15日(水) 会務検討特別委員会
- 20日(月) 会員管理システム検討委員会
- 20日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 21日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
- 21日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 23日(木) 総務・厚生部厚生委員会
- 27日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 27日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
- 28日(火) 事業推進部学術委員会(企画会議)
- 30日(木) 事業推進部保険委員会

3) 出張

- 5月11日(土) 四国地域支部連合会支部長会・総会(香川県支部担当) 矢崎会長, 佐瀬副会長, 久保田理事出席
学術講演会 講師・鈴木一雄先生(宮城県開業)
- 18日(土) 秋田県支部総会 矢崎会長出席
学術講演会 講師・水口 清教授(母校)
- 25日(土) 福島県支部総会 佐瀬副会長出席
学術講演会 講師・片倉 朗教授(母校)
- 26日(日) 全国歯科大学同窓会・校友会主催「石井みどり支援総決起大会」 矢崎会長出席

4) 事業

- 5月16日(木) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.2 イブニングセミナー「今日からはじめる こだわりの補綴」

～補綴物に現れる基本の重要性～

- 5) 監査会
 5月30日(水) 監査会
 6月
 1) 理事会
 6月26日(水) 第3回常任理事会
 2) 委員会
 6月3日(月) 事業推進部(企画会議)
 3日(月) 事業推進部学術委員会(研究部)
 7日(金) 事業推進部学術委員会(事業検討部)
 8日(土) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
 10日(月) 広報部広報委員会
 12日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
 13日(木) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
 13日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会委員会
 14日(金) 同窓会創立120周年記念事業準備委員会
 21日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
 24日(月) 同窓会・会務運営協議会
 25日(火) 事業推進部学術委員会(企画会議)
 28日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
 3) 出張
 6月1日(土) 中国地域支部連合会支部長会・総会(鳥取県支部担当) 矢崎会長, 財部常任理事, 小徳理事, 原監事出席
 学術講演会 講師・丸森英史先生(神奈川県開業)
 4日(火) 大学との懇談会

- 矢崎会長, 他役員出席
 9日(日) 神奈川県支部連合同窓会学術講演会
 講師・宝田恭子先生(東京都開業)
 12日(水) 渋谷支部総会 浮地副会長出席
 22日(土) 東北地域支部連合会支部長会・総会(山形県支部担当) 矢崎会長, 白井常任理事, 高橋理事出席
 学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)
 22日(土) 九州地域支部連合会支部長会(鹿児島県支部担当)
 高橋専務理事, 田部理事出席
 27日(木) 東京地域支部連合会主催都歯関係東歯同窓懇談会 矢崎会長出席
 29日(土) 新潟県支部総会 矢崎会長出席
 学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)
 4) 事業
 6月9日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 卒研セミナーNo.3 実習セミナー「ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析」
 20日(木) 東歯関係日歯役員・代議員, 都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会懇親会
 22日(土) TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース①
 23日(日) TDC 卒後研修セミナー2013 インプラントの極意4日間コース②

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 27 卒	間 野 直 樹 (82歳)	神奈川県横浜市	24. 3. 2
●昭 43 卒	山 下 佐 命 (75歳)	鹿児島県	23. 12. 18
●昭 19.9 卒	市 川 重 彦 (89歳)	千葉県市川市	25. 3. 4
●昭 36 卒	斉 藤 郁 郎 (76歳)	北海道苫小牧市	25. 3. 7
●昭 14 卒	武 安 正 嘉 (96歳)	群馬県邑楽郡	25. 3. 7
●推薦会員	谷 崎 幸 夫 (96歳)	三重県志摩市	25. 3. 3
●昭 46 卒	水 沼 等 (65歳)	千葉県佐倉市	24. 5. 29
●昭 23 卒	中 村 順 一 (87歳)	東京都練馬区	25. 3. 15

●昭 38 卒	長 東 三千雄 (75歳)	神奈川県藤沢市	25. 3. 19
●昭 34 卒	水 口 晃 夫 (78歳)	神奈川県横浜市	24. 12. 19
●昭 22 卒	船 坂 豊 (89歳)	東京都台東区	25. 3. 26
●昭 27 卒	湯 口 聰 (84歳)	愛知県西尾市	25. 3. 27
●昭 36 卒	柳 義 文 (78歳)	北海道滝川市	25. 3. 29
●昭 13 卒	新 井 清 (99歳)	茨城県常総市	25. 3. 27
●昭 28 卒	田 口 真 也 (84歳)	東京都大田区	25. 3. 31
●昭 20.9 卒	高 石 一 秀 (88歳)	福岡県みやま市	25. 3. 31
●昭 35 卒	宍 倉 潤 子 (77歳)	千葉県四街道市	25. 3. 29
●昭 15 卒	坂 本 豊 美 (95歳)	静岡県静岡市	25. 4. 1
●昭 56 卒	岡 田 孝 枝 (56歳)	千葉県成田市	25. 2. 14
●昭 56 卒	三 輪 裕 二 (58歳)	東京都世田谷区	25. 3. 29
●平 12 卒	山 本 みちる (37歳)	大分県大分市	25. 4. 6
●昭 22 卒	大 杉 三 郎 (88歳)	東京都大田区	25. 1. 26
●昭 26 卒	横 井 隆 一 (83歳)	東京都大田区	25. 4. 23
●昭 17.9 卒	長谷川 正 康 (92歳)	東京都文京区	25. 4. 27
●昭 32 卒	今 西 孝 博 (80歳)	東京都新宿区	25. 4. 28
●昭 27 卒	北 野 晋 一 (82歳)	三重県松阪市	25. 4. 25
●昭 24 卒	佐 藤 正 (86歳)	神奈川県横浜市	25. 4. 22
●昭 20.9 卒	正 岡 寿 (89歳)	栃木県宇都宮市	25. 4. 27
●昭 41 卒	河 野 雅 光 (72歳)	宮崎県児湯郡	25. 5. 11
●昭 27 卒	橋 口 綽 徳 (82歳)	東京都新宿区	25. 5. 15
●昭 24 卒	赤 松 英 一 (87歳)	東京都目黒区	25. 5. 10
●昭 20.9 卒	鮎 瀬 洋 一 (90歳)	栃木県那須塩原市	25. 5. 19
●昭 31 卒	鬼久保 小百合 (81歳)	東京都台東区	25. 6. 1

—— 宇野澤秀樹君を偲んで「うのありがとう」 —— 新葉会(昭和63年卒) ——



去る1月29日 帰宅後に彼の突然の訃報を聞いて以来、私たちは茫然自失、その日から今日までその喪失感が続いています。私たちは野村 仰君の結婚式での再会をきっかけに3年前から仲の良い同級生6人で定期的に食事会をしていました。昨年11月29日に宇野澤君の幹事で食事会を行いました。この時の彼はいつもと変わらず元気に飲んで食べて大いに会を盛り上げてくれました。会の後「皆、どこの駅から帰るの」と仲間を気遣う彼の優しい言葉が私た

ちにとって最後の声となってしまいました。宇野澤君は卒業後は口腔外科学講座に在籍し顎関節の研究で学位を取得されました。その後はUCLAでインプラントの第一人者に師事し研鑽を積み、帰国後はインプラントの臨床、講習会で活躍されていました。私たちが日常臨床で口腔外科の問題を宇野澤君に相談すると、いつもすぐに丁寧で明確なアドバイスをくれ、本当に助けられました。彼自身で解決できない時は、口腔外科で活躍されてる教授の先生に相談してくれました。彼は学生時代からとても優秀で優しく、そして格好良く、誰からも愛され信頼され

る人でした。その人柄は今日までずっと変わりませんでした。

これからさらなる発展を期待されていた時期に一番無念なのは宇野澤君自身ですよね。私たちにとって彼と過ごした時間の全てが大切な財産です。彼は一生私たちの心の中で生き続けてくれると思います。

「うの、いつも笑顔で優しく仲間を応援してくれてありがとう。これからも天から私たちを応援していてね」。心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

(昭和63年卒・赤真圭子, 片倉孝子, 高橋治好, 中村泰規, 沼澤孝典, 延島ひろみ, 野村 仰 記)

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

(5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき <input type="checkbox"/> ふるさと自慢 <input type="checkbox"/> すいどうばし <input type="checkbox"/> いなげ <input type="checkbox"/> クラス会だより <input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

いいんかいしょうかい

厚生委員会は6名の委員と2名の協力委員の計8名で構成されています。現在、共済金制度の見直しと緊急時代診制度についての協議が中心となっております。特に共済金制度に関しましては、平成17年に保険業法案の成立により、同窓会共済金制度の見直しを余儀なくされ、平成20年の評議員会で共済規定が改定され、現行の共済金制度に移行致しました。そして、その際に5年後に見直しする事を条件としておりました。その5年後というのが今年の評議員会であります。そこで現在1. 現状維持 2. 規定の一部変更 3. 廃止について委員会の中で激論を戦い合わせ検討している最中であります。是非先生方のご意見、ご指導を頂けましたら幸いです。今後も同窓の先生方のお役に立てます事業を検討して参る所存でございます。



厚生委員会委員長 西山 潔

いいんかいしょうかい

昨年度より、若手会員への支援を目的に若手ネットワーク委員会が立ち上げられ活動しております。若手同窓向けに学術・保険・情報に関する無料セミナー開催や同期会（クラス会）開催の支援から若手会員同士の連携がとれるようなサポートを行っております。また、若手同窓からの質問、診療所見学、開業、歯科医師会入会等の情報が得られるように、全国に若手ネットワーク担当者を設置し準備しております。ホームページや同窓会報から順次ご案内していきますので、よろしくお願い致します。

会員から同窓会に要望すること期待するものの実現に向けて、その橋渡し

となればと思っております。ご覧の通り、担当高野常任理事をはじめ女性の多い委員会で構成されております。女性ならではの視点から若い同窓を交えた新しい同窓会になれるような事業を企画して参ります。

若手会員にとって同窓会が身近なものに感じられるよう、委員一同、本部理事共に頑張っていきたいと思っております。

若手ネットワーク委員会委員長 木暮隆司



★ 6月は地球が受ける太陽エネルギー量が年間を通じて最も多くなり、地球が熱いパワーを蓄える時期である。太陽からの受熱量は夏至の頃最大となり、受熱量と放熱量とのバランスによって、夏至からおおよそひと月後に1年中で最も暑い季節を迎える。美しい日本列島の四季のなかでも、梅雨時の不安定な天候もまた格別の趣がある。雨に濡れた柿の葉は薄墨色の空に鮮やかに浮かび上がり、水滴を載せた紫陽花はしっとりとして大気を潤す。一方、梅雨の晴れ間の日射しはととても爽やかで、特に夕刻の太陽の輝きは残暑の頃のギラギラした西日と違って清々しく、新緑に映えてとても美しい。

★ 私の住む横浜は野口英世ゆかりの地である。医学者への志を得た22歳の野口英世は横浜港検疫所に検疫医官補として検疫業務を行い、横浜港に入港する船からペスト患者を発見するなどの功績を挙げた。ここでの業績が評価され、悲願だった留学のチャンスを掴む。そして出発に際し血脇先生から「世の中は…」の歌を贈られたことはあまりにも有名である。横浜には今なお、国内で唯一、博士ゆかりの研究施設として旧細菌検査室が現存している。

★ さて5月から6月にかけて、横浜はちょっとした野口英世ブームであった。横浜で開催された第5回アフリカ開発会議を中心に、6月はアフリカ月間としていろいろな催しが開かれ、医療関係では第2回野口英世アフリカ賞の授与が行われた。同賞は小泉内閣時代に日本政府が創設した「アフリカに関する医学研究及び医療活動を顕彰」することを目的とした国際賞で、賞の名の由来は黄熱病の研究のため、アクラで客死した野口の偉業に因ることは勿論である。

★ 同賞に関連して横浜では、みなとみらい地区を中心に、「野口英世と北里柴三郎展」、「野口英世記念展と猪苗代物産展」など野口英世に関する催しが目白押しであった。白眉は母校名誉教授高添一郎先生による「野口英世の志」と題した記念講演会であった。久しぶりでお見かけした先生は昔日の面影を全く失わず、矍鑠とした姿で博士の生きざまを1時間半に亘って情熱的に語られ、一般聴衆を英世の世界に引き込んだ。野口英世の語り部として、末長くご健勝であられることをお祈りする。

★ 一方全国的な展開としては、アフリカ賞を記念して、日本郵便から野口英世の記念切手が発行された。図柄は、「肖像+愛用の顕微鏡・母シカの手紙」と、「肖像+愛用の地球儀」の2種類で、10枚組みの記念シートの余白部分には、自作の絵画「カンゾウの花」が挿画されている。野口英世は現在まで数次に及んで切手の題材になるに留まらず、ガーナやエクアドルの切手にも登場するなど、国際人としての面目躍如たるところを今に伝える。

★ さて、いよいよ迫った大学の水道橋移転。新館校舎(仮称)は躯体がほぼ完成し、三崎町の一角にその偉容を現した。内装も進み、順調に仕上がりが段階を迎えている。母校は6月の日本列島のように、教職員、学生、父兄、同窓、大学を取り巻く全ての関係者から熱烈なエネルギーとパワーを受けて蓄え、満を持して移転に臨む。

私たちのシンボルともいふべき新血脇記念ホールも完成間近である。同窓の思いの結実した立派な新血脇記念ホールの完成を、泉下の血脇先生も心待ちにしているに違いない。
(渡邊宇一 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
委員 古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭一
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
宇佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成25年6月20日 印刷

発行人 小 池 修

平成25年6月25日 発行

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会会報 第391号

東京歯科大学同窓会

同窓会ホームページアドレス

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

<http://www.tdc-alumni.jp>

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)